（第１号議案）

2022 年度事業報告書

1、全体の報告（成果と課題）…1
2、事業報告…2
A ボランティアセンター…2
B フードバンク…6
C ユニバーサル就労支援…8
D 災害救援…10
E NPO活動推進センター…11
F とちぎコミュニティ基金…15
G 県北Ｖネット…23
3、財政・組織運営…24

１．全体の報告（成果と課題）

① 累計 1 億 400 万円の支援。とちぎコミュニティ基金

とちぎコミュニティ基金の助成は、2022 年度末の累計で 1 億 4000 万円になった（2007-2022）。前期からはじまった休眠預金事業の成果でもあるが、独自事業の合同ファンドレイジング（サンタｄｅラン等）も参加 19 団体で 700 万の寄付があり、チャリティウォークと合わせて 1,000 万円の寄付を集めた。

とちコミ職員は通常業務との兼任もあり、外部に営業や広報、調査に行く機会が作れない。人員体制の強化が必要である。

また、前期（2021 年度）から行ってきた**「とちぎのミライをつくる大会」**は助成金活用の報告会のみならず、県内の主要なＮＰＯの交流の場として重要な役割を果たしている。「他団体との交流が持ててよかった」と好評を得るなど、とちコミの存在や知名度を高める重要な大会となっている。

② 社会福祉士を活用した総合相談体制の確立

総合相談支援をフードバンクと独立型社会福祉士事務所とのセットで実施してきた。今期は月 2 回実施したケース検討会を重ねたことで、解決力が向上した。また、社会福祉士の相談員やボランティア相談員が増えた。

いっぽうで、食品提供が 2300 回を超えるなど困窮者が急増し、複雑困難なケースも増えている。生活困窮者世帯の立ち直り支援を確実にするためには「制度による支援」が必要であり、「生活保護行政と FB との協働」が必須となっている。

また、社会福祉士会や医師の会合に呼ばれるなど、困窮者支援機関としての存在感が増している。さらに社会福祉士養成校や、医大看護学部などの実習生を受け入れ、生活困窮家庭のケースワークについて全国唯一の実習機関となっている。

③ 職員とボランティアの協働で活性化した県北事務所

3 年間の助成金で、子どもの居場所事業を開始し、同時に非常勤職員を採用することで、ボランティアとの協働態勢ができた。その結果、県北事務所全体の事業が活性化した。職員がハブとなり子どもを対象の事業が安定的に実施されたことで、多くの人が県北事務所に集まるようになった。フードバンクは毎月の食品配布会を実施し、相談支援体制の厚みも増し、社会福祉協議会などの支援機関との連携数も増えている。

また、**チャリティウォーク県北**や**県北クリスマスウォーク**の開催で寄付の増加とともに、30 代から 60 代のボランティアが増えてきた。

④ Ｖレンジャーなど若者ボランティアの活躍

学生・若者ボランティアチーム**Ｖレンジャー**や、**みんながけっぷちラジオ学生、しもつけ自然のアルバム・**

ラジオ学生、FB ボランティアなど、**総勢 30 人を超える若者**が出入りし、事務所が活性化した。

次期の活動アイデア出しとボランティア間の交流を目的とした**「来年なにするか会議」**や**「中期計画会議」**にも若者ボランティアが多く参加した。若者からは「Ｖネットの全体像を知ることができた」「大学生活では出会えない大人と意見を交えることができて良かった」などの感想があった。また１月に実施した**「若者会議」**は、若者有志が企画・運営から携わり、社会問題の学びの機会となった。今後も若者が社会とつながり課題を考える場をつくるとともに、若者の成長を促した。

課題は、学生ボランティアの「入れ替わりの激しさ」である。ボランティアマネジメントができるスタッフの力量向上が必要である。

⑤ コロナ禍と物価高で、フードバンク利用者 2,300 件越

個人や企業から毎日のように食品を寄贈されるようになった。それに伴い利用者も増え、年間 2300 件（前年度比 1.38 倍）を超える利用回数となった。フードバンクうつのみやは認定 NPO 法人の認証を受け、社会的責任のある法人として存在する立場になった。

しかし、今期は増える利用者の対応に追われ、**県内のネットワークの強化**や**フードバンク light** を広めることができなかった。

次期にそれらを達成するためには、資金調達や相談員の配置が必要である。さらに、「困窮者支援の民間の取り組みの促進」のための政策形成と制度要求をおこなう必要がある。行政や県・市議会議員などへのアドボカシーを行わなければならない。

⑥ 資金助成や団体基盤強化を行う「休眠預金事業」

今期（2022 年度）も日本民間公益活動連携機構（ＪＡＮＰＩＡ）の「新型コロナウイルス対応緊急支援助成」の資金分配団体として本会・とちぎコミュニティ基金が採択された。前期 1,600 万円増の 3,500 万円を 9 団体に助成した。

各助成団体にとっては、初期投資をかけないとできない活動の発展や基盤強化を図ることができた。さらに通常の助成金事業と異なり、助成団体同士の横のつながりを研修会や報告会などを通して作ることができた。いっぽうで、設立したばかりの団体や組織基盤が弱い団体へのサポートが課題として残った。

⑦ ユニバーサル就労ネットワーク栃木の法人化

2022 年度は、毎週の定例事務局会議をおこないつつ、専門職の協力者を増やしてきた。初期の運転資金を獲得することができ、より支援が受けやすくする為に１月に NPO 法人化した。

さらに年度末に大口の寄付があり、次期からの運営・事業体制の構築にはずみがついている。今後、生活困窮者自立相談事業を委受託するためには、相談者の増加、支援方法の開発、受け入れ企業・事業所の開拓をしていく必要がある。

２．事業報告

Ａ．【ボランティアセンター】

(1)総合相談事業（ボランティアとＮＰＯに関する啓発普及等事業）

ボランティアしたい希望者に活動の場を紹介し、「ボランティアの応援求む」ＳＯＳニーズに対応するため需給調整をし、困難ケースは解決を図った。個別ＳＯＳの解決は「総合相談支援センター」が担っている。

①総合相談支援センターの運営

総合相談支援センターは、ＦＢうつのみやでのＳＯＳ対応とその後の生活支援、さらに若者支援や社協の困窮者自立支援事業からの依頼ケースに対応するため本会が行ってきた**「個別のＳＯＳに同行支援する方法」**を全面的に公開して実施した。この事業ではボランティアの個別性・柔軟性を最大限に活用することが、これからの地域福祉推進に必要な能力と考える。

【表1　相談者の状況のまとめ】

	のべ（回）	月平均（回）	実数（件）	内複数回支援（件）	宇都宮市内/市外（　）は住所不定	世帯の人数	男/女
2012 年度	30	2.5	30	5	19(9)/11(1)	単身:23、2 人:5、3 人以上:2	22/8
2013 年度	75	6.25	46	11	32(10)/14(1)	単身:27、2 人:14、3 人以上:5	28/18
2014 年度	196	16.08	135	25	72(47)/16	単身:101、2 人:11、3 人 6、4 人:3、 5 人:5、 6 人:1、7 人:3、10 人:1	106/29
2015 年度	243	20.25	165	49	102(11)/65(25)	単身:140、2 人:25、3 人:11、4 人:7、 5 人:6、 6 人:4、8 人:1	118/47
2016 年度	350	29.8	185	49	144/18(23)	単身:126、2 人:33、3 人:10、4 人:10、 5 人:３、６人:１、７人:1、10 人 1	124/61
2017 年度	572	47.7	248	182	177/15 (29)	単身:158、2 人:35、3 人:11、4 人:11、 5 人:6	160/61
2018 年度	685	57.1	304	159	272(32)/32(20)	単身：218、2 人：49、3 人：19、4 人：9、5 人：4、6 人：4、 7 人以上：1	217/87
2019 年度	828	69.0	366	177	327(25)/39(7)	単身：271、2 人：51、3 人：26、4 人：13、5 人：3、6 人：2、 7 人以上：0	261/105
2020 年度	1298	108.2	495	247	446(29)/49(10)	単身：368、2 人：74、3 人：36、4 人：10、5 人：4、6 人：0、 7 人以上：3 人	340/155
2021 年度	1658	138.25	542	290	514(28)/28 (5)	単身：377、2 人：75 人、3 人:62 人、4 人:17 人、5 人：5 人、6 人:2 人、7 人以上:4 人	353/189
2022 年度	2304	192.0	649	333	600(30)/49(11)	単身：427、2 人:114、3 人:59、4 人:25、5 人:15、6 人:4、7 人以上:5	407/242

【全世帯】649 世帯　　―2022 年度―

●主な困窮の内容（複数）：仕事探し・失業・就職、216　病気・健康・障害 67、　住居 9、　金銭管理・所持金無し 362、　精神疾患・人間関係など 47、　日々の生活(低年金)209　債務（家賃滞納など含む）44、　子育て・介護 9、　DV・離婚など 12

●生活保護の世帯数：　受給利用中：132、　手続き中：100

●本会までの経路：　自治体（生活福祉課・子ども家庭課・保健所など）138、　社協（県内社協含む）67、　宮ハローワーク 14、　地域包括支援センター9、　ＮＰＯ4、　ネット・テレビ 36、　その他 101

【住居なし】41 世帯

●男女比は、男 32：女 9

●困窮の内容（複数）仕事探し就職 8、ホームレス 19（うち車上生活 2, 移動中 4）、住居 1、精神疾患・人間関係 5, 収入生活費・低年金 4、病気・健康 3、離婚 1、孤立 3

【女性相談者】242 世帯

●単身 98/世帯持ち 144

●困窮の内容（複数）：ＤＶ離婚など 9、病気・精神疾患 40、仕事探し・失業 121、金銭管理不能・債務 211、子育て・介護 3

「とちぎボランティアネットワーク独立型社会福祉士事務所」として総合相談支援を行い、行政や社会福祉協議会、地域包括支援センターなど数多くの支援実績を積むことができた。今期の支援件数は649件（世帯）のべ2304回と、回数は**前期の1.38倍**になった。「個別ＳＯＳへの対応とともに社会課題の解決を図る」部門として自立的な活動が定着しつつある。

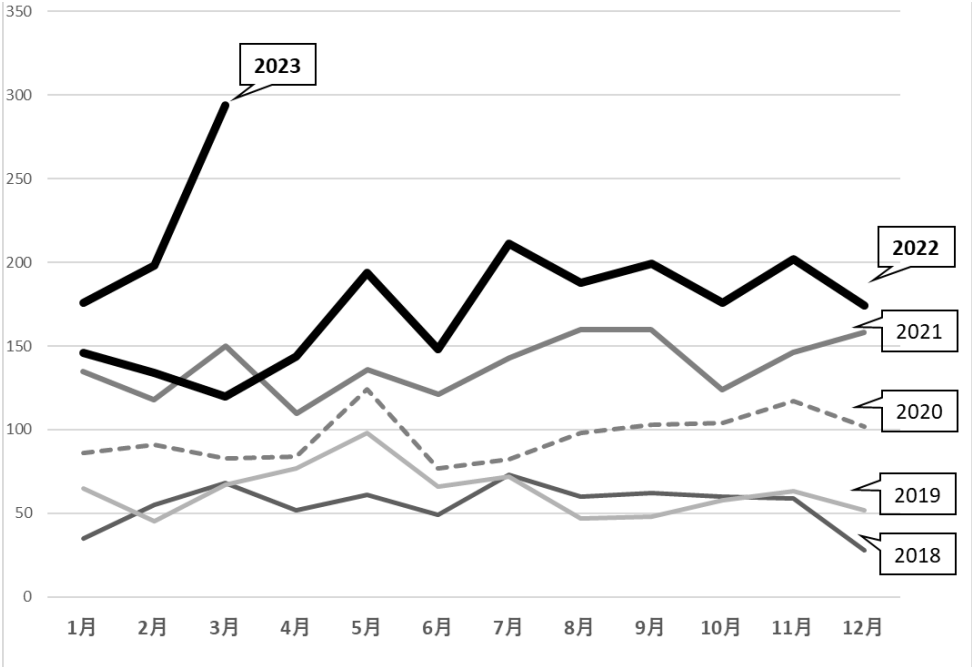
奨学米プロジェクトは**9世帯（のべ53回）、奨学米324kg、食品301kg、野菜配送42回**となった。従来通りの活動であり支援対象世帯は増えなかった。しかし継続的な個別支援をするなかで、児童相談所や市役所の子ども家庭課との連携もできた。

表１は相談者の状況のまとめである。母子家庭など地域で定着している困窮者(世帯)への支援方策は見えてきたが宇都宮の母子家庭だけで2700世帯（推定）あり、掘り起しが必要である。

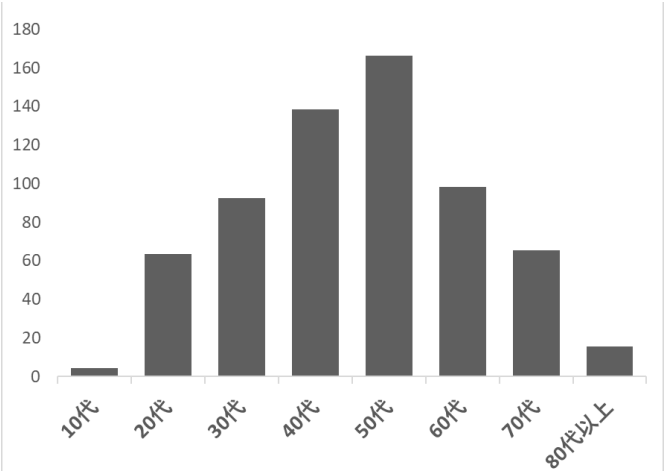
表２では、2018年度から2022度のフードバンク利用回数を月別に表した。2021年度は前年度、全々年度に比べ5月を除いては、どの月も利用回数が多い。増加の要因としては①コロナ禍で実際に困窮する人が増えたこと、②フードバンク自体の認知度が高まったこと、③複数回の利用者が増えたこと、つまり一度の支援では生活が立ち直らなくなっていることが考えられる。

表３では、2021年度の世代別利用世帯数を表した。2022年度は前年度と同様、50代が167世帯、40代が139世帯と、働き盛りや子育て世代の利用が多かった。20代～70代以上の利用が増加し、20代と70代の増加が著しい。

【表２　フードバンク利用回数（月別：2018～2022年度）】



【表３　世代別利用者数（2022年度）n=649】



年代	2021年度	2022年度	前年比
10代	6	**5**	83%
20代	40	**64**	160%
30代	77	**93**	121%
40代	124	**139**	112%
50代	146	**167**	114%
60代	81	**99**	122%
70代	49	**66**	135%
80代以上	19	**16**	84%
計(世帯)	542	649	120%

②コールセンター栃木の運営支援

今期も厚生労働省**社会的包摂ワンストップ相談支援事業**を(一般社団)社会的包摂サポートセンターを通し「コールセンター栃木」の支援をした。栃木では**26人のスタッフ**で**年間2385件の電話相談**に対応した。そのうち同行支援の必要があるものについては、継続相談員が直接面会をするなどの同行支援をおこなった。

（２）ボランティア・コーディネーション事業（ボランティアとＮＰＯに関する啓発普及等事業）

①キャンプで救う子どもの貧困、Vレンジャー

「キャンプで救う子どもの貧困」をテーマに、子どもの「体験の貧困」をなくすために活動する若者ボランティアチーム、Ｖレンジャー。2019年夏から活動を始め４年目の活動になった。今期は主催イベント1回、年間で計19回の会議をした。夏と冬に2回のキャンプを企画し、開催した。他団体主催の企画への参加もした。3カ所程度の子ども食堂のボランティアも、メンバー内で誘い合いながら活動した。現在計15名程度が精力的に活動して

いる。

企画名	主催	日程	外部参加者	参加者
子ども食堂はみんなの居場所キャンペーン	子ども SUNSUN プロジェクト	4/10		8 人：高橋、小野、山本、鈴木、斎藤、宮坂、勅使河原、福島
V レンジャー新メンバー歓迎会、ボランティア講座	V レンジャー	4/17		14 人：山崎、高橋、小野、山本、菅原、村上、廣居、宮原、鈴木、芳賀、斎藤、宮坂、勅使河原、矢野
夏デイキャンプ企画	V レンジャー	9/10	こども 4 人 大人 1 人	11 人：高橋、小野、芳賀、原田、斎藤、宮坂、勅使河原、宮原、中島、和田、矢野
春企画お泊り会	V レンジャー	3/27-28	こども 16 人 大人 3 人	14 人：山崎、高橋、中島、菅原、斎藤、伏本、勅使河原、阿部、田村、福田、福島、和田、矢野

（３）講師派遣事業（ボランティアとＮＰＯに関する啓発普及等事業）

ボランティア活動、ＮＰＯの啓発普及のため役職員等を講師として派遣した。派遣は**27回**（聴講数のべ723人）で講義回数聴衆は前期と同様であった。講義内容は、子どもの貧困、フードバンクが多かった。

	回	月日	講座名（内容）	主催等	場所	講師	聴衆
1	8	4/15～5/20	「ボランティア論」	宇都宮短大	宇都宮	矢野(宮坂・小沢・曽根・桜井)	80
2	2	5/8	「子どもの貧困について」	国際ロータリー社会奉仕員会	宇都宮	矢野	50
3	1	5/16	フードバンクについて	陽南地区福祉協力員	宇都宮	徳山	30
4	1	5/25	レガシーギフト Facebook ライブ	レガシーギフト協会	事務所(ZOOM)	矢野	50
5	1	6/20	休眠預金・受託団体研修 「ファンドレイジングとは」	本会・休眠預金チーム	宇都宮・イエローフィッシュ	矢野	10
6	1	7/3	フードバンクについて	中央ライオンズ・レオクラブ	宇都宮・陽南小	徳山	100
7	1	7/31	フードバンクについて	めぐみキリスト教会	宇都宮	牧岡	30
8	1	8/8	休眠預金・受託団体研修 「NPO のリスクマネジメント」	本会・休眠預金チーム	宇都宮・イエローフィッシュ	柴田・矢野	20
9	1	8/23	「フードバンクを知ろう」ZOOM 講座	大田原社協	大田原	安井・實	20
10	1	9/1	「いきがい・たすけあいサミット 2022」 寄付文化分科会パネリスト	さわやか福祉財団	東京	矢野	50
11	1	10/14	「ボランティア・市民活動論」講義（矢）	獨協医科大学・看護学部	壬生	矢野	120
12	1	11/24	「フードバンク」授業	那須塩原市・西小学校	那須塩原	實	20
13	1	12/3	「子どもの貧困＝SUNSUN プロジェクト」	Ys メンズクラブ（東日本）	事務所(ZOOM)	矢野	15
14	1	12/0	「子どもの貧困」講演	ＪＡ栃木職員研修	宇都宮	矢野	40
15	1	12/17	とちぎソーシャルケア従事者協議会 「公開セミナー」パネリスト	とちぎソーシャルケア従事者協議会学会	宇都宮	小沢	150
16	1	1/23	「フードバンク」	大田原中学校で	宇都宮	實	35
17	1	2/23	「フードバンクの取組みについて	くらら	宇都宮	徳山	30
18	1	2/24	「フードバンク」	那須塩原市・西小学校		實	20
計	27						870

Ｂ．【フードバンク】

(1)フードバンク事業（生活困窮者の支援）

月	受贈量 (kg)	寄贈量 (kg)
4 月	1229	2253
5 月	1679	2243
6 月	3026	2536
7 月	1559	3030
8 月	6365	2862
9 月	3572	4226
10 月	3832	3705
11 月	3741	3431
12 月	3689	4493
1 月	2614	3836
2 月	4711	3467
3 月	2427	3708
合計	**38.517**	**39.329**
前年 (2021)	**40.163**	**37.135**
増減	**-1.64**	**+2.194**

賞味・消費期限内の食品を無償でいただき無償で配るフードバンク（ＦＢ）活動は、今期は **38.5 トンの食品受贈**があった。企業や農協協同組合そして通販で食品を寄付してする人が増加した。

直接支援を求める人の数はＰ3 に記載されている通りだが、増える相談者に対して相談支援のほかに食品配送、回収、管理ボラなどの運営スタッフを増やしていく必要がある。

バイト、日雇い、非正規で就労している人（外国ルーツの人も含む）など生活が苦しい人に対し、食品配布会を **6 回実施**し、**307 世帯に**配布した。配布会では生活相談やアンケート等を実施した結果、多くの外国籍・外国ルーツの人たちが困窮していることが判明した。

社会の状況が改善されていないことを考えると、今後も困窮者が増えることが予想される。**倉庫、ボランティア、食品、資金の調達**が**急務**になっている。

食品配布会：6 回
1.4/23: 50 ｾｯﾄ　2.6/25　45 ｾｯﾄ　3.8/27:38 ｾｯﾄ　4.10/22：54 ｾｯﾄ　5.12/24: 60 ｾｯﾄ　6.2/24　62 ｾｯﾄ

① フードドライブの実施、及びきずなボックスの設置

フードドライブの食品受口として**食品受付箱（以下：きずなボックス）**を設置するため公共施設、店舗、会社事務所、病院、寺院等の **27 か所**に設置した。一定の宣伝効果があるが、きずなボックスの食品受取は、管理する店舗の善意とボランティアによる回収が前提なので、回収体制の強化が進まず微増のみに留まった。

フードドライブ（FD）を定期的に実施した**（とちぎコープ、宇都宮市役所ゴミ減量課、ハーベストウォーク、イベントなど）。**また市内・光琳寺では毎月１日に境内で行うラジオ体操時にＦＤを実施した。

「きずなボックス」・「食品受付窓口」設置場所

No	設置場所	団体名(住所)	No	設置場所	団体名(住所)
1	戸祭地域コミュニティセンター	戸祭地区　民生委員・児童委員協議会（宇都宮市戸祭 1 丁目 10-25）	15	協立診療所	栃木保健医療生活協同組合（宇都宮市　宝木）
2	とちぎコープ越戸店（サービスカウンター）	とちぎ生活協同組合（宇都宮市越戸 3 丁目 12-9）	16	ふたば診療所	栃木保健医療生活協同組合（宇都宮市　）
3	とちぎコープおもちゃのまち店(サービスカウンター)	とちぎ生活協同組合（壬生町至宝 3 丁目 12-31）	17	はやぶさ交通㈱	（宇都宮市江曽島町１１８１－３）
4	とちぎコープ鶴田店（サービスカウンター）	とちぎ生活協同組合（宇都宮市鶴田町 861）	18	しのいの郷	社福）房幸会（宇都宮市上小池町）
5	ヒカリ座	ヒカリ座（宇都宮市江野町 7-1-3）	19	末日聖徒イエス・キリスト教会	（宇都宮市幸町）
6	やさいくだもの村さくら店	（宇都宮市松原 2 丁目 2-51）	20	浄鏡寺	（宇都宮市塙田 2 丁目）
7	宇都宮市役所・ゴミ減量課	宇都宮市（市役所 12 階）	21	アカデミックロード宇都宮校	アカデミックロード AR（宇都宮市伝馬町）
8	光琳寺（毎月１日のみ）	（宇都宮市西原 1 丁目 4-12）	22	栃木県ボランティア活動振興センター	（宇都宮市若草　福祉プラザ１階）
9	惠光寺	（宇都宮市下栗町 2255）	23	宇賀神新聞店（集金日に回収）電話 028-625-0870	（宇都宮市上戸祭 2 丁目 1-45）
10	栃木県社会福祉士会事務所	（宇都宮市若草　福祉プラザ１階）	24	ファミリーマート（五代二丁目店）	（宇都宮市五代二丁目）

11	宇都宮卸商業団地協同組合事務所	（宇都宮市問屋町３１７２−１）	25	ファミリーマート（緑野南店）	（宇都宮市緑野町）
12	ＪＵ栃木	（宇都宮市上欠町 1021-3）	26	ファミリーマート（インターパークツタヤ店）	（宇都宮市インターパーク）
13	ミヤラジ	(株)宇都宮コミュニティーメディア（宇都宮市江野町 7-8）	27	ファミリーマート（江曽島店）	（宇都宮市江曽島町）
14	さくら・ら心療内科	（宇都宮市桜３丁目 1-36）			

フードドライブ：19 回

・4 月　とちぎコープおもちゃのまち店 FD（4/3）37.3 kg
　子ども食堂応援イベント FD（4/10）105.42 kg
・5 月　地球・思いやりマルシェ FD（5/15）6.7 kg
　フェスタマイ宇都宮 FD（5/22）1.9 kg
・6 月　キャンドル雷都 FD　（6/11）3.3 kg
　県民の日イベント FD（6/11）93.65 kg
・7 月　宇都宮中央ライオンズクラブ主催バレーボール大会（徳山　佐藤）50.75 kg、寄付 18000 円
・8 月　おやまゆうえんハーベストウォーク FD（8/28）20.4 kg
・10 月　コープつるた店 FD（10/9）127 kg、
　JU 栃木 FD（10/14）191.5 kg
・11 月　コープ越戸店 FD（11/6）110.1 kg
・12 月　ブレックス FD（12/3）106.8 kg
・2 月　ブレックス FD（2/11）83.8 kg
その他、
いちごハートネット事業 FD、大東建託リーシング、福田屋百貨店、めぐみキリスト協会、宇都宮北高、国本中学校、シルバー大、

② ＦＢ食品の利用「奨学米プロジェクト」

学齢期の子供がいる低所得の母子家庭等に対し毎月定期的に米を提供し、浮いたお金で学用品などを買ってもらう**「奨学米プロジェクト」**を実施した。月１回の米の他に、**野菜配達**をボランティアによって実施した。

母子家庭のほとんどは働いているが非正規が多く、また生活・通勤に必要で自家用車を持っている場合、生活保護を受けることが困難である。低所得に加えて社会保障の給付の枠組みから外れ、事実上生活保護以下の暮らしをしている人も多い。

「お母さんたちと毎月定期的に支援者と話すことで困り事を言える状況が生まれ、母子家庭の孤立を防ぐことが主眼である」が、相談体制がうまく構築できず、支援世帯数も増やせていない。日夜働き詰めの母との接点の時間がないことが原因である。

学齢期にある生活困窮家庭への“奨学米”プロジェクト要項

1、目的

2010 年度の国の調査では、母子家庭のうち 65％が年収 180 万円以下であり、夫婦２人世帯の平均年収では 300 万円以上の差がある。また国民の相対的貧困率は 16.1％であるが母子家庭の貧困率は 54.3％である。様々な事情で身内や地域に頼れない人も多くフードバンクに頼れない（頼らない）人も多い。さらに 2014 年度に本会・フードバンク(FB)宇都宮が、女性(世帯)へ支援した割合は３割であり、非常に少ない。

こうしたことから、ＦＢうつのみやでは学齢期の子供がいる母子家庭等に対し、米による家計負担の支援を定期的に行い、同時に生活の相談を行うことで困窮母子家庭の生活支援をしていく。

母子家庭等と、本会職員・ボランティアがつながりを持つことによって、何か困った時に頼ることができる関係＝縁を作り、一緒になって解決できるようにすることが重要である。

2、対象者

・原則として県央地区に住む学齢期の子供がいる母子家庭等、20 世帯
・低所得（例/3 人家族で月収 20 万円、年 240 万以下）の世帯であり、身内や友人にたよることが難しい世帯。
・生活保護世帯は対象外とする。

3、内容

①１か月白米 10-30ｋｇの支援を毎月行う。対象世帯の人数と状況を勘案し決定する。
②対象世帯数 20 世帯。米の確保、倉庫の課題が解決されれば対象者数の増加も検討する。
③米保有量は 4.8ｔ（10ｋｇ×12 月×20 世帯）
④配送方法は原則としてボランティア等が相手宅まで届ける。配送の際に相手宅の玄関をまたぐことが関係構築や状況把握の上で重要と考える。(場合によってはフードバンク事務所に本人が来ることも可とする。)
⑤配送日は原則として、火曜日 13：30-17：00.対象者の都合が悪い場合は要相談。
⑥受付はＶネット事務所（028-622-0021）で行う。
⑦ボランティアは５人程度募集。同じ人が同じ家庭に継続的にかかわる。
⑧保管は米で行いその都度精米する。保管場所は、当面ＦＢ大田原の倉庫とするが、宇都宮近郊で倉庫を探していく。
⑨配送車はＦＢ所有の車両やボランティアの自家用車とする。

4、広報

・米募集…インターネット及び、チラシを作成しＪＡやコープ等に営業。
・対象世帯向け…対象世帯むけのチラシを作成。ＤＶ関係ＮＰＯ、母子家庭関係者に対象世帯の選定、ピックアップの要請をする。
・ボランティア募集…チラシの他、インターネットでの周知、本会会員・ボランティアに対しては電話、機関紙等での勧誘を行う。
（福祉プラザ、まちぴあ、ピックアップ要請団体、若者支援係の団体）

③ 広報

テレビのニュースや新聞に掲載される機会が増え、食品の寄贈や寄付金を予定通り集めることができた。情報拡散効果が強い **twitter** や**ブログ**を中心に情報を更新した。Twitter のフォロワー数も **4000 人**近くになった。

応援者を増やすために更なる戦略的な有効な広報を展開する必要がある。

④各拠点の事業

全拠点の特徴として、行政や社協などの支援機関を通して食品支援を実施した。

＜フードバンク県北＞支援機関の要請により食品支援の実施。毎月第２土曜日に食品配布を実施。

＜フードバンク日光＞毎月第１水曜日に会議を実施。行政からの困窮者支援依頼を中心に対応している。食品配布会を不定期に３回実施。

ＦＢ日光会議：12 回　4/6、5/11、6/2、7/6、8/3、9/7、10/5、11/2、12/7、1/4、2/1、3/1

＜フードバンク那須烏山＞行政、社協からの依頼のあった困窮者へ食品支援を中心に行った。

フードバンクうつのみや会議　（毎週木）：44 回 4/7、4/14、4/21、4/28、5/12、5/7、5/19、5/26, 6/2、6/9、6/16、6/23　6/30、7/7、7/14、7/21、7/28、8/4、8/12、8/25、9/1、9/8	9/15、9/22、9/29、10/6、10/13、10/20 、10/27、11/10、11/17, 11/24、12/1、12/8、12/15、12/22、1/5、1/12、1/19、2/2、2/9、2/16、3/2、3/9、3/16、3/23

Ｃ．【ユニバーサル就労ネットワーク栃木】

(1)ＮＰＯ法人ユニバーサル就労ネットワーク栃木の運営（生活困窮者の支援）

本会、ふれあいコープ、とちぎコープの３者を中心に、労働者協同組合、独立型社会福祉士事務所、弁護士等と2019年９月からユニバーサル就労研究会を毎月１回開催してきた。今期は２月に「**ユニバーサル就労ネットワーク栃木」をNPO法人化した。次期、市の困窮者自立支援事業・就労準備支援の受託にむけて活動を行った。ネットワークは「中間的就労事業所」を県内に増やしていく**ために企業・事業所への営業を行う中間支援団体である。本会の独自財源と企業・事業所からの出向の営業担当者を迎えて、企業の開拓、内部の受入態勢の整備、伴走支援の人材育成、広報、資金調達などを行った。アセスメント・支援方法などノウハウの蓄積を行ったが、本格的な企業開拓や利用者の募集・利用には至っていない。

①相談支援事業

○UW 相談支援の現状　（2022 年 3 月 27 日～2023 年 3 月 9 日まで）

	項目	状況
1	人数・件数	相談数：30 人、53 件（複数回の相談支援）
2	性別・割合	男 17 人（56.7%）　女 13 人（43.3%）
3	属性（特徴的なもの）	①精神障害　9 人（30%）　②生活保護　4 人（13.3%）　③刑余者 2 人（6.7%）④知的障害 2 人（6.7%） ④　引きこもり 2 人（6.7%）　⑥身体障害 1 人（3.3%）　⑦化学物質過敏症　1 人（3.3%）　⑧パワハラ 1 人（3.3%） ⑧　その他 8 人（26.7%）
4	年齢（21-70 歳）	⑥　20 代 7 人（24.1%）　②30 代 4 人（13.8%）③40 代 5 人（17.2%）④50 代 11 人（37.9%）　⑤60 代 1 人（3.3%） ⑤　70 代 1 人（3.3%）　⑦不明 1 人（3.3%）
5	就労状況	無職：19 人（63.3%）　有職：11 人（36.7%）
6	状況(3/31 現在)	継続相談：13 人　保留：11 人　終了：6 人※うち採用者 4 人
7	理由(主訴)	・人と話すのが苦手　・犯罪歴があり採用して貰えない　・パワハラで退職した　・携帯が通じなくて解雇された ・母子家庭で休みが多いと言われている　・契約満了で無職になった

○**フードバンクうつのみやの利用者を対象**として生活支援とユニバーサル就労の取組み、および就労相談を行った。相談支援機関周辺にはポスター、パンフレット等で広報活動も実施。

○**相談者への聞き取り**は、インテークシートおよびアセスメントシート（様式）を作成し運用を行った。
○就労相談の情報共有と進め方については、**毎週水曜日の「ユニバーサル就労内部打合わせ会議」で**、参加メンバー間で実施しノウハウの蓄積を行った。（6 団体 10 人が参加。25 回開催）
○相談支援員のネットワークづくりとして、一般社団法人りあんの理事長や、キャリアコンサルタント（個人）の参加を得て相談支援態勢の構築をした。

②就労体験・訓練事業・就労訓練受入事業所の拡大（4 つのステップ）

○就労訓練事業所登録および申請
・UWN 栃木設立団体および会員協力団体等とともに、就労訓練事業所登録申請を、栃木県庁保健福祉部、宇都宮市保健福祉部に提出した。結果、新たに 6 団体 8 事業所が登録した。
・また、すでに事業所登録を行っている団体および事業者への視察と聞き取り訪問を行った。
①野木町（社会福祉法人パステル　多機能型事業所セルプ花）
②宇都宮市（社会福祉法人共生の丘　救護施設共生の杜）
・本人の意志やペースにあわせた働き方として、会員 5 団体による業務の分解シートの作成し見学や就労訓練の場づくりを実施した。（短時間の業務）
①無償コミューター（職場見学・ボランティア等）②有償コミューターの取り組み事前準備。

③会員拡大、企業・団体の拡大。

ア：会員団体および寄付団体数状況について
・UWN 栃木定期会議が 2022 年度は 11 回開催。（2022 年 4 月～2023 年 3 月の期間）（9 団体、個人会員 6 人）
※2019 年 10 月より延べ開催は 30 回）
イ：企業および団体への広報・会員拡大営業
・UWN 栃木取り組み広報および会員営業については、34 団体に訪問実施。

④行政・社協（県・市町）支援団体等との連携

・宇都宮市役所および宇都宮社会福祉協議議会への設立および UWN 取り組みを説明、訪問実施。
・鹿沼社会福祉協議会への UWN 栃木の取り組み説明を実施。鹿沼市社会福祉協議会職員 2 人と鹿沼市企業への就労訓練事業所登録説明を行った。

⑤支援機関・各団体との連携・協力

・栃木県産業労働観光部労働政策課　若者自立支援ネットワーク会議構成員向けに UWN 栃木のパンフレット配布依頼（250 部郵送配布）
・日弁連の貧困問題全国キャラバン（生活保護とフードバンク）シンポジウムでパンフレット（400 部配布）
・若者サポートステーションにおいて UWN 栃木の設立趣旨と職業適性検査について聞き取り訪問実施。連携の可能性についても打合せを実施。
・障がい者就業・生活支援センターへのパンフレット配布（宇都宮県域生活支援セ、県南県域生活支援セ）
・とちぎボランティア NPO センターぽぽらスタッフによる UWN 栃木についての組み聞き取り訪問が行われた。あわせて UW の対象となる企業・団体の情報提供がされた。

⑥UW 取り組み団体への視察・研究

・UWN ちばユニバーサル就労の意見交換会、実践者意見交換会、試行評価調査説明会、実践家評価担当者・評価ファシリテーター研修会等に参加。また、UWN ちばのユニバーサル就労「効果モデル」試行評価調査および UWN 栃木へ取り組み状況等の聞き取りがされた。
・UWN ちば「風村いなげ」視察・学習訪問。UWN 栃木相談支援員、UWN 事務局 3 人が参加。
・日本財団 WROK！DIVERSITY カンファレンス」での UWN ちば・岐阜市・福岡取り組み 3 団体報告会に参加。

⑦広報

・HP（ホームページ）・活動ブログ掲載等の作成
・パンレットおよび取り組み詳細チラシ作成と配布。
・UWN 栃木の名刺および名札の作成（協力者への配布実施）

D.【災害救援・復興支援活動】

(1)救援・復興支援事業（災害救援事業）

3回の災害に対し調査・派遣活動を行なった。新潟・静岡の活動は日本財団の助成金で実施した。

	事業名	事業の概要	参加者	日付	会場
1	福島･宮城地震救援活動（調査・OJT 派遣）	2022/3/16 日発生した福島・宮城の地震の救援活動のために調査および技術系ボランティアの OJT を行った。 ①調査（1回）：宮城県山元町、福島県相馬市・南相馬市で各地の救援活動する NPO 5 団体に取材。被害状況、ニーズ、推定ニーズ、救援団体、活動状況、活動手法について聞き取り。 ②OJT 派遣（1回）：宮城県山元町。屋根の応急補修のための技術系ボランティアの実地研修を行う。	① 調査 2 人 ② 派遣 7 人	①4/9、②4/23	①宮城県・福島県各地 4 か所 ②山元町「お寺 VC」及び周辺住宅
2	新潟北部水害・救援活動（調査･技術系ボラ派遣）	2022/8/3 に発生した新潟北部豪雨の救援活動のために 8・9 に新潟県関川村に対して調査派遣と技術系のボランティアを派遣した 〇活動は技術系のボランティアとして、県外からの募集の制限があったが「床はがし、壁はがし、床下の清掃・消毒」などの活動をおこなった。また、本会の所有する送風機等の備品を現地で貸し出す活動を現地団体とともに行った。	〇のべ 50 人	活動日数 14 日	関川村地内、約 7 か所
3	静岡水害･救援活動（調査･技術系ボラ派遣）	2022/9/23 の発生した静岡水害の救援活動のため静岡市の被災地に対して技術系のボランティアを 10 月から 1 月に派遣した。（現在も活動中） 〇県外からの募集の制限があったが「床はがし、壁はがし、床下の清掃・消毒」などの活動をおこなった。また、本会の所有する送風機・「水も吸える掃除機」等の備品を現地で貸し出したいる。 〇また､静岡市のボランティアセンターの立ち上げ支援としてＶＣ運営に熟達したボランティアを派遣した。	〇のべ 76 人	活動日数 20 日	静岡市葵区(VC 等)、清水区

上記２、３（新潟北部水害、静岡水害）についての成果と課題

【目標】

●活動予定人数：40 人（のべ 100 人）　●活動場所：新潟県関川村、静岡県静岡市　●支援対象：浸水被害家屋　約 50 件　うち技術系ニーズ対応：のべ 16 戸

●活動内容：(1)浸水被害家屋への応急処置　(2)浸水被害家屋への資機材貸出し…ＤＩＹセンター備品貸出回数：30 回（ダクトファン等による乾燥）

【目標の達成状況】

①活動人数は 126 人となり、のべ人数は目標達成した。しかし、実人数では 8 月 8 人、9 月 13 人、10 月 14 人、11 月 7 人の計 42 人で、月毎の重複を入れると実数は半数の 20 人であり、目標に達しなかった。

　達成できなかった理由は「県外からは技術系ボランティアのみの募集」であったことで、一般に公募をしても技術系のボランティアが集まらず、会員や過去活動した知り合いに声をかける方法となった。結果、新規の人（今後技術系の活動の可能性がある人）がいなかったことなど、絶対数が集まらなかった。

②被災家屋の支援件数は 35 件であり、目標の 50 件には達しなかった。しかし技術系の家屋目標 17 件は達成した。多くのボランティアを送り出すことができなかったので泥出しなどの活動ができず、技術系の活動は週

末に活動が限定されたことが要因である。

③浸水家屋の応急処置、および資機材の貸出は、新潟では地元ボランティア団体代表（近美千代：旧斎藤医院つなぐプロジェクト代表）とともに、本会の送風機（ダクトファン）を８台貸出し 10 件の家の床下乾燥に使った。また、静岡では、追加の 10 台のダクトファンと「水も吸える掃除機」とともに貸し出し活動の現場で使った。（11 月中旬以降から 23/1 月末まで備品貸出しの活動を継続している）

【事業実施によって得られた成果】

・コロナ禍で実施できなかった、県外への災害救援活動が 3 年ぶりに実施できた。この結果本会の職員はボランティアスタッフへの災害救援のノウハウの伝授ができた。

・技術系ボランティアの知識・技術的なノウハウが蓄積した。水害後の家屋補修の重要性と困難さを理解できた。

・栃木県内の技術系ボランティアチームをまとめた形での災害救援が初めて実施できた。

・少ない人数ではあるが、被災地への支援活動ができ、被災者の立ち直りに貢献できた。

【成功したこととその要因】

・震災がつなぐ全国ネットワークなどで常々交流のある「技術系」ＮＰＯとの現場で素早い活動展開ができた。

・3 年前の栃木県内の水害で、県内の技術系ＮＰＯ（ボランティア）との活動経験があったこと。個々人の能力や技術力が互いに分っていた。

・日本財団など災害時の緊急助成金の存在。すばやく助成されることで、寄付など自己資金が集まらない災害（小規模な災害、地方の災害、マスコミが報道しない）にも救援活動ができるようになった。

【失敗したこととその要因】

・「県外のＮＰＯ（ボランティア）は募集しない」ことにより、県外から支援したい団体の活動が制限された。こうした受援側の姿勢により、救われなかった被災地・被災者も多くいるだろう。また、長期間の支援もできにくい。

・「技術系ＮＰＯのみ県外からも募集」とはいっても、多くは、数人の個人プレイのＮＰＯであり、同時に複数の多様なテーマに関わることはできない。さらに、被災地に渡り歩いていってしまう傾向が強い。また、現場でＯＪＴにより「技術系を育てる」ことも、一般公募ができないので不可能であった。「経験者のみ・専門家のみ集める」というスタンスは、将来の災害ボランティア全体の持続可能性をなくしていくだろう。

復興支援活動：まけないぞうプロジェクト

今期も東日本大震災被災地の復興支援のために「まけないぞう」の制作・販売を行った。寄付でいただいたタオルを、被災地のお母さんたちが手縫いで「ぞう」の形にした壁掛けタオルである。これを本会が買い取って販売し売上の 25%が作り手の収入になり、生きがいやコミュニティづくり、生業の支援になる。**当期は 210 頭、84,000 円**の売上となった。

（２）三者連携/防災についての会議・研修（ボランティアとＮＰＯに関する啓発普及等事業）

今期は活動はなく、会合も年に１度の形式的なものであった。2019 年の台風 19 号水害を契機に、県、内閣府ともにわかに「三者連携」会議等が増えたが、県の担当者が平均２年で変わり、担当の室長は毎年異動していく栃木県庁の体制そのものが機能不全にさせている。

（３）「とちぎＶネット災害救援ボランティア基金」（ＮＰＯの活動資金の援助事業）

今期は実施しなかった。

Ｅ．【ＮＰＯ活動推進センター】

(1)ＮＰＯに関する相談・協働事業（ＮＰＯの育成事業）

①福島からの避難者支援「福島県復興支援員事業」、「福島県外避難への相談・交流・説明会事業」

福島県から「復興支援員設置事業」と「生活再建支援拠点事業」の２つの事業を受託した。栃木県内には福島からの避難者が推定2000人いるが、この世帯に対して復興支援員(非常勤２人)は避難者の訪問支援活動をした。全戸訪問した名簿で毎月２回、要継続支援20人を対象に実施した。また**広報誌『とちぎ暮らしの手帖』**を**2回発行**した。

生活再建支援拠点事業は**避難者が来訪し相談できる窓口**として週３日開設した。今期はコロナ禍で交流会を実施できなかったため避難者が出演する**ラジオ番組を実施。また、自主事業として毎月第2日曜に「次世代に伝える。原発避難11年目ラジオ」**を放送した。さらに、動画でも配信し、3月には担当ラジオ学生の企画で「次世代に伝える原発避難を語る会」をオンラインで開催した。

回	放送日	テーマ	ゲスト	コメント/学生
1	1/9	やれることはやる	遠藤雄子/川内村	北村/櫻井
2	2/13	助け合い	榊原比呂志/双葉町	北村/櫻井、鈴木
3	3/13	11年目ラジオ特番	榊原比呂志、志賀仁、清水奈名子	北村/櫻井、宮坂、佐藤、鈴木
4	4/17	双葉町長に聞く	伊澤史朗(双葉町町長)	北村/櫻井
5	5/15	元子どもの避難	吉田尚輝/葛尾/福島	櫻井/中島
6	6/19	人の輪	木幡サチ子/	北村/櫻井、加藤
7	7/17	避難者と福祉サービス	北村雅/双葉/小山	櫻井/吉田、加藤
8	8/21	元高校生に聞く避難と今	伊澤暁/富岡/富岡	北村/櫻井、佐藤、吉田、加藤
9	9/18	次世代に伝えること	大塚淳子/浪江/つくば市	北村/櫻井、吉田、加藤
10	10/16	「次世代に伝える、原発避難」交流会	—	北村/櫻井、氏家、斎藤、吉田、加藤
11	11/20	避難生活・問題解決の会	橘光顕	北村/櫻井、吉田
12	12/18	政府の問題	菅野千代子	矢野/櫻井、吉田、加藤
13	1/24	ジャーナリストがみた原発避難	吉田千亜(フリーライター)	矢野/吉田美音、櫻井
14	2/28	一時の避難が、まさか…	竹内都/大熊/鹿沼	矢野/加藤
15	3/28	支援者が議員になったわけ	山根辰洋（双葉町議員）	北村/加藤・櫻井

⑥ SAVEJAPANプロジェクトの運営、「しもつけ自然のアルバム」の制作・放送

2021年10月から損保ジャパン日本興和と日本NPOセンターの運営による「SAVELAPANプロジェクト」の助成を受けた。２期目は**とちぎ子ども自然体験ネットワーク**と**本会との協働(2022/10-2023/10)**による環境保全プロジェクトを実施している。本会は特にSDGｓの行動変容を促すための環境保全、生物多様性の５分間番組「しもつけ自然のアルバム」を学生３人（菊地真以、濱上百々、鈴木凛花）とともに制作し、ラジオ、Youtube、TIKTOK動画等で配信している。

最大で３年間の助成で、昨年度（2021/10-2022/10）は菊地・麦倉・嶋崎の学生３人と下野自然に親しむ会の協働で実施し、下野市のコミュニティFM「FMゆうがお」で５分間番組を放送した。２年目の**現在は宇都宮のコミュニティFM（ミヤラジ）で月水金の朝7：55-8：00に５分間番組**による広報を行っている。

実施期間は2021/10-１年間だが、下表は2022/3-2022/10までの放送回である。

【下野自然のアルバム：５分間番組/動画　2022/3-10】

回	放送日	テーマ・ゲスト	取材先（団体/名前）	制作者
1	3/3	『森林博士に聞いてみた！地球温暖化と森林について』	宇都宮大学　大久保達弘教授	菊地真以（学）
2.3	3/7，10	保坂さん野鳥のこと教えてください	保坂安美（親しむ会・探鳥部会）	中村節子(親しむ会)
4.5	3/14，17	『ハエの生態を知ってハエを好きになろう？！』	ナチュラリスト 伊村務さん	麦倉悠斗(学)
6.7	3/21，24	「虫好き女子の内田雅子さんにインタビュー」	内田雅子（親しむ会・昆虫部会）	中村
8.9	3/28，31	『農業とコウノトリ　ふゆみず田んぼとは？』	小山市農政課・穐山、自然共生課・野口	島崎春奈(学)
10.11	4/4，7	きのこアドバイザー川嶋さんにを聞いてみました	川嶋健市（㈱北研）	平澤幸彦（親
12.13	4/11，14	『奥日光のシカ対策』	自然公園財団　日光支部　松本翔一さん	菊地（学）
14.15	4/18，21	「地球環境にやさしい有機栽培で安心で美味な野菜作り」	岡本英樹（下野自然に親しむ会・農業部	大橋（親）

			会）	
16.17	4/25, 28	『ミミズの知られざる生態について』	栃木県立博物館　南谷幸雄さん	麦倉
18.19	5/2, 5	ジャコウアゲハをお宅に呼びませんか！イベント報告	イベントの報告 中村節子	中村
20.21	5/9, 12	『身近な昆虫食　カメムシ、ケラ…食べたことある？』	栃木県立博物館　栗原隆さん	島崎
22.23	5/16, 19	環境 NPO 訪問①「なんと 40 年、ヤマセミ通信は 500 号―の秘密は？」	渡邊知義（鹿沼自然観察会）	杉浦健夫（親しむ会）
24.25	5/23, 26	『外来種のオオハンゴンソウ。きれいな花だけど…？』	髙橋俊守さん（宇都宮大学教授）	麦倉
26.27	5/30, 6/2	野市の製炭士、田中さんにインタビュー(前編)	田中さんにインタビュー(前編)	中村
28.29	6/6, 9	環境 NPO 訪問②『宇都宮市でサンショウウオに会える！』	岡田喜三（レッドバイン会長）	菊地
30.31	6/13, 16	環境 NPO 訪問③「荒れ果てた森林や竹林を再生、県内で 10 ヶ所以上、参加者は 1,800 人/年」	トチギ環境未来基地/塚本竜也	杉浦健夫（親しむ会）
32.33	6/20, 23	『ウシとアウトドア』	大石陸さん（宇都宮大学農学部 3 年）	島崎
34.35	6/27, 30	環境 NPO 訪問④「自然が主役　外から持ち込まない、持ち出さない」	みずほの里山再生プロジェクト	杉浦
36.37	7/4, 7	環境 NPO 訪問⑤「生態系全体の保護になぜオオタカなのか」	遠藤孝一（オオタカ保護基金・理事長）	菊地
38.39	7/11, 13	明治里山再生プロジェクト「里山は生物多様性の原点　その整備は、地域の安心・安全につながる」	明治里山再生プロジェクト	杉浦
40.41	7/18, 21	『外来種のオオハンゴンソウ。きれいな花だけど…？』	髙橋俊守さん（宇都宮大学教授）	麦倉
42.23	7/25, 28	星空のことカガミさんインタビュー	各務温（かがみゆたか）	中村
44.45	8/1, 4	『農業とコウノトリ　ふゆみず田んぼとは？』	小山市農政課：穐山、自然共生課：野口	島崎
46.47	8/8, 11	里山・雑木林の再生について	中村節子（自然に親しむ会・里山部会）	各務豊（親）
48	8/15	『森林博士に聞いてみた！地球温暖化と森林について』	宇都宮大学　大久保達弘教授	菊地

⑦ 委員の委嘱などでの運営協力

各種委員に委嘱される等で会議、研修、講座の選考等に協力した。今期は「県社協ボランティア活動振興センター」「栃木県災害ボランティア活動検討会」の会合があった。

(2)ボランティアとＮＰＯに関する啓発・普及事業

①『とちコミＳＤＧｓ通信』『フードバンク通信』『県北通信』の発行

2021年1・２月号から、誌名を**『とちコミ・ＳＤＧｓ通信』**と変更し紙面の内容を大幅変更した。とちぎコミュニティ基金とＳＤＧｓを中心にした紙媒体を「特出し」することで、情報誌購読だけの会員増加を狙った。いわばＶネットのプラットホームに「ＳＤＧｓ通信の会員」が乗ったものである。年6回、毎回1000部発行しＳＤＧｓ関連企業160社にも送付した。

他に、2019年1月から**『フードバンク通信』**を発行した。これは「今月のＳＯＳ」記事を４ページを別刷りにしたもので、編集は本会職員が行い発行は「ＦＢうつのみや」とし、ＦＢうつのみやの機関紙とともに同封することで、ＦＢ会員に対しＦＢ以外にも大きな広がりが感じられるような情報提供をしていく。

また、2020年1月からは**『県北Ｖネット通信』**を創刊。県北のフードバンクのＳＯＳ事例を掲載した4ページ通信を発刊した。これらの措置により「とちコミＳＤＧｓ通信」のプラットホームとしての価値を見せていく。

さらに、ラジオ、Youtube**、ＷＥＢ、ＳＮＳ**と**紙媒体**とを連動して広報力を強化している。職員、学生ラジオパーソナリティ、新聞切抜き隊、ボランティアによる取材、執筆を行い、担当職員による印刷とボランティア２～３人による製本・発送で成り立っている。

【とちぎコミュニティ基金・SDGｓ通信】

月	号	特集記事		月	号	特集記事
3-4月	253	特集/SDGｓ６「安全な水とトイレを」ＮＧＯウォーター・エイドジャパン　/時評：難民として扱わない国・日本		9-10月	256	特集/SDGｓ９「産業と技術革新の基盤をつくろう」/災害時インフラ復旧としての災害時ケアプラン「別府方式座談会」
5-6月	254	特集/SDGｓ７「エネルギーをみんなに、クリーンに」/非電化工房/太陽光発電の功罪		11-12月	257	特集/SDGｓ17「パートナーシップで目標達成」/私の仕事とSDGｓ寄稿
7-8月	255	特集/SDGｓ８「働きがいも経済成長も」/労働組合・ＮＰＯ・識者訪問		1-2月	258	特集/SDGｓ10「人や国の不平等をなくそう」/ルポ・脱施設「自立生活の今」/知的障害者の地域生活とアドボカシー

②「みんながけっぷちラジオ」の放送/動画

ラジオ局の運営を、コミュニティＦＭ「ミヤラジ」の開局と同時に2017年3月から開始した。ラジオ学生がゲ

ストに話を聞き、職員等がコメントするスタイルである。取材・放送・ブログ作成までを学生が臨時職員（アルバイト）として担当した。今期は学生５人(鈴木花梨、佐藤優、中島桃也、櫻井脩弥、氏家綺莉)となり、前年のラジオ学生もラジオ学生会議などでサポートに入る体制にした。年末に**「学生ラジオ・募集説明会」**を実施し、１月からは学生５人（鈴木花梨、吉田美音、加藤伶奈、森田凛子、藤平音乃）で実施している。

番組をYoutube**動画**で再録し**ラジオ番組をホームページで毎回公開**することにした。また**「次世代に伝える。原発避難11年目ラジオ」**を毎月第２日曜、11時から放送した。1月からはみんながけっぷちラジオと合併し、毎月第3火曜19時から放送している。

「半径８キロしか聞こえない」コミュニティＦＭは、放送の広報（ラジオ聴取）力はあまりないが、媒体作成・媒体出演者との関係性に学生が関わることで、動画配信などの新しい活動や、学生自身の成長と本会関係者の変化がある。さらに学生チーム・Ｖレンジャーや、ＦＢボランティアとの相乗効果により、かかわる学生数が10人以上となっている。学生にもＮＰＯにも有意義な出会いとなった。

【みんながけっぷちラジオ・番組表】

回	放送日	テーマ	ゲスト/所属	コメント/学生
1	4/5	青少年の自立	星美保/青少年の自立を支える会	徳山/佐藤優
2	4/12	不登校	高実子●/明るい不登校	中野/氏家綺莉
3	4/19	アートで子どもの心を開放	五味渕仁美/もうひとつの美術館	矢野/佐藤
4	4/26	薬物依存	栃原●/ダルク	矢野/氏家
5	5/3	子どもの居場所	小田健治/たんぽぽの会	徳山/佐藤
6	5/10	不登校	高実子●/明るい不登校	中野/氏家
7	5/17	外国人の医療	日下部●/外国人の医療	矢野/氏家
8	5/24	遺児支援	山本有衣子/あしなが育英会	矢野/中島桃也
9	5/31	災害「屋根直しボランティア」	和田紋佳/阿部遥香	宮坂/佐藤優
10	6/7	新設　さくら市のフードバンク	仲根/フードバンクさくら	徳山/氏家
11	6/14	子ども、食、環境、健康	梅村/うつのみやオリーブ	中野/佐藤
12	6/21	ヤングケアラー	斎藤/ケアラ-PJ	矢野/中島
13	6/28	森づくり	塚本竜也/トチギ環境未来基地	矢野/佐藤
14	7/5	育児、妊娠、出産	青木宏統/そらいろコアラ	徳山/中島
15	7/12	児童保護	片桐●/家庭児童センター	中野/佐藤
16	7/19	子どもの虐待防止	吉成晴香/子どもの育ちを応援する会	矢野/氏家
17	7/26	子どもの虐待防止	畠山由美/だいじょうぶ	矢野/中島
18	8/2	元公務員が語る FB ボランティア	下山/FB ボランティア	徳山/櫻井
19	8/9	高齢者の孤立化	長谷川●、角田●/えんがお	中野/佐藤
20	8/16	障がい者が地域で一人暮らしする自立生活	斎藤●/CIL とちぎ	矢野/氏家
21	8/23	生活困窮者、要治療者のフォロー	長澤正隆/北関東医療相談会	矢野、中島
22	8/30	がけっぷち経験	ラジオ学生企画	櫻井脩弥、中島、氏家、佐藤
23	9/6	社協にあるフードバンク	菊地/FB 鹿沼	徳山、佐藤
24	9/13	不登校	竹内●/フリーランド	中野、櫻井
25	9/20	保護司の活動から見える社会的弱者	鷹箸●/YMCA	矢野、中島
26	9/27	リトルベビーサークル	小林恵/にちにちらんらん	矢野、鈴木花梨
27	10/4	引きこもりの子どもと家庭の支援	斎藤●/ベリー会	曽根、中島
28	10/11	不登校	平山●/県北ほどほど	中野、鈴木
29	10/18	災害ボランティア	柴田貴史/災害	矢野、佐藤
30	10/25	ご近所トラブルの解決	鈴木祐輔/ﾒﾃﾞｨｴｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ	矢野、鈴木
31	11/1	子ども宅食・ひとり親家庭への食品支援	小野●、遠山●/パンダのしっぽ	徳山、佐藤
32	11/8	子どもの居場所	佐藤/コドモノミカタ	中野、鈴木
33	11/15	高齢者の孤立対策「ごちゃまぜまちづくり」	門間大輝/えんがお	矢野、氏家
34	11/22	性暴力の被害	大塚●/とちエール MSW	矢野、鈴木
35	11/29	ゲスト３人に聞く、あなたが取組むＳＤＧｓ	ラジオ学生企画	櫻井、中島、氏家、佐藤、鈴木
36	12/6	オンライン居場所	小川美穂/ハロハロラボ	中野、鈴木
37	12/13	宇都宮中央ライオンズクラブ	塙尚恵/はやぶさ交通	徳山、佐藤

38	12/20	育児、妊娠、出産	立石香織/そらいろコアラ	矢野、鈴木
39	12/27	地域活性化	西村●/正光寺	矢野、櫻井
40	1/10	不登校の居場所・仕事	大藤園子/てしごとや	中野/鈴木花梨
41	1/17	若者と地域参画	渡邊貴也/YSN	矢野/藤平音乃
42	1/24	（原発避難）ジャーナリストがみた原発避難	吉田千亜（フリーライター）	矢野/吉田美音、櫻井
43	1/31	市民の目線で考える戦争	清水奈名子（宇大・准教授）	矢野/加藤怜奈、桜井
44	2/7	フードバンクうつのみや	牧岡健（FB 宇都宮）	徳山/森田凛子
45	2/14	登校拒否の大御所	石林●	中野/鈴木
46	2/21	知的障害者の余暇	原田久美（スペシャルオリンピックス日本・栃木）	矢野/藤平
47	2/28	（原発避難）一時の避難が、まさか…	竹内都/大熊/鹿沼	矢野/加藤
48	3/7	外国人の生活困窮	カストロ・オマル、カブレラ・サユリ（NPO 希望のタネ）	徳山/吉田
49	3/14	自由な居場所	菅圭（ここあっと）	中野/森田
50	3/21	とちぎコミュニティ基金と寄付	矢野正広	矢野/鈴木
51	3/28	（原発避難）支援者が議員になったわけ	山根辰洋（双葉町議員）	北村/加藤・櫻井

（３）震災がつなぐ全国ネットワークへの加盟・運営（ボランティアとＮＰＯに関する啓発普及等事業）

災害時の全国的なボランティアネットワークを構築するため「震災がつなぐ全国ネットワーク（略称＝震つな)」へ加盟し、役職員を同ネットワークの顧問・理事として業務にあたらせた。さらに、全国災害ボランティア支援連絡会（ＪＶＯＡＤ）にも加盟した。

（４）ボランタリズム推進団体会議（民ボラ）の運営（ボランティアとＮＰＯに関する啓発普及等事業）

全国の市民活動やボランティア活動の中間支援団体が一堂に会し、市民活動の推進方策、中間支援団体自身の経営について研鑽し話し合う「第 39 回ボランタリズム推進団体会議（民ボラ)」を **7 月に東京**で実施した。企画・運営・実施に職員１人を実行委員として派遣し実施した。

Ｆ．【とちぎコミュニティ基金】

（トピック）

・とちコミの累積配分額が１億 4000 万円になった。(2007-2022 年度)
・とちコミ「ご意見番会議」を実施した。
・とちコミの助成事業実施報告書・決算報告の様式を作成した。（３月から適用）
・全国レガシーギフト協会のイベント（遺贈寄付ウィーク）に参加。
・休眠預金等活用事業の実施で、県内ＮＰＯからはとちコミへの注目度があがった。
・緊急支援募金では、新潟・静岡水害、トルコ・シリア地震の募金活動を行った。
・ウクライナ支援緊急募金は 193 万円になった。
・サンタ de クリーン＆ウォークでは過去最高の寄付 704 万円が集まった。
・宇都宮市の「子どもの貧困」関連事業（親と子の居場所事業、宮っ子の居場所事業）がはじまるが連携がない。

（実績概要）

とちぎコミュニティ基金（以下とちコミ）は大きく**「プロジェクト」「助成」「合同ファンドレイジング」の３部門**がある。今期は、合同ファンドレイジング（サンタ de ラン）と助成（休眠預金事業）が活発になった。

「ゆめ・SDGｓ助成」は３年継続の助成金であるが３団体のうち２年目の**継続助成**は１団体となった。

５つの助成の合同活動報告会として、3 月にオンラインで**「とちぎのミライをつくる大会」**を実施した。のべ 23 団体の報告と交流会を行った。県内外の NPO 関係者を中心に約 50 人が参加した。

（１）プロジェクト（ＮＰＯの活動資金の援助事業）

①子ども SUNSUN プロジェクト＝子どもの貧困撃退♡円卓会議（宇都宮）

経緯（2017 年）

2017 年３月から地域の課題を解決するプロジェクトとして「子どもの貧困」をテーマに円卓会議を開催し、2017 年 10 月に調査報告、2018 年３月に実施計画を発表した。

（2018 年）

目標数の設定と資源集め事業の立ち上げを行った。宇都宮市内の各中学校区にこども食堂、無料学習支援、居場所、フードバンクの支援拠点セットをつくることを目標とした。そのために宇都宮の概ね中学校区ごとに**地区円卓会議**を開催する計画とした。また、全体の課題を解決する場として定期円卓会議を年４回開催。9 月には**清原地区子どもの貧困撃退・円卓会議が**発足し、とちぎＹＭＣＡを中心に、地区内の社会福祉施設、自治会、民生委員児童委員等とともに地域ぐるみの活動になった。また 2018 年度は市外への波及として**大田原子どもの貧困撃退円卓会議**を開催し、調査やファンドレイジング講座を開催した。ファンドレイジングとして、サンタ de ラン＆ウォークや通年の子どもＳＵＮＳＵＮメイト(月額寄付)で**総額 846 万円**を集めた。

（2019 年）

５月に**総会**を実施した。**助成金申請書/ファンドレイジング計画書**の公募を行った。定期円卓会議は 8/18「子ども食堂をもっと増やすには」のテーマでワークショップを実施し 20 人が参加した。**地区円卓会議**として、清原地区円卓会議では**子ども食堂キャラバン**を開始し、9 月には**「子ども食堂チャリティコンサート」**を地区で実施し 100 万円の寄付を集めた。宝木地区でも**宝木こども未来応援隊**が医療生協、村井クリニック、老人ホームの連携で発足し、元デーサービス施設で子ども食堂が定期的に開催されるようになった。寄付は**総額 550 万円**を集めた。

（2020 年）

コロナ禍のため 5 月に緊急オンライン会議を実施し活動を協議した。総会と定期円卓会議（１回）を中止し 2019 年度分助成金 92 万円を次期(2021)に配分することにした。**定期円卓会議は２回実施した。12** 月**「コロナ禍での子ども食堂の再開」**をリアルと ZOOM で実施。**2022 年 3 月**は**「にほんで生きる海外につながる子どもたち」**をテーマに ZOOM で開催した。

また 12 月のサンタ de ランは「ラン」を取りやめ、**サンタ de クリーン大作成＆ｅスポーツ**として、リアルとオンラインの企画とした。今期は例年になく動画での宣伝や、学生・高校生のボランティアによる寄付集めも行われ、**550 万円**を集めて **13 団体に分配**した。個人・企業からの都度寄付などで子どもＳＵＮＳＵＮプロジェクトの**寄付総額は 886 万円**となった。

子ども食堂はコロナ禍での弁当配布になった所が多かった。一方で新たに臨時の食堂を行う所もあり宇都宮市内では２か所増。本会関係では 2021 年２月から市内中心部で**宮っ子元気食堂**が理事２人の尽力により開設した。毎月２回の弁当の提供だが、待っている母子家庭等も多数ある。

無料学習支援の増加はなく、訪問型病児保育はコロナ禍で活動ができず休止状態となった。

また、9 月から市の「親と子の居場所」事業が２か所開設した。今後、中学校区に１か所開設する方向とのことで、この事業の市内への普及とネットワーク化を検討する。フードバンクはコロナ禍であったため、注目度が高まり食品受贈量も拡大し活発に運営している。

（2021 年）

・７月にオンライン＋対面での総会を実施した。

・9 月に子ども SUNSU プロジェクト助成金を公募選考し 7 団体に 110 万円を配分した。

・定期円卓会議は 10 月（親と子の居場所事業）と３月（外国ルーツの子どもの貧困調査報告）の２回実施した。サンタ de ランの他には新規の活動は行なわず、今期は「調査を行う時期」として、外国ルーツの子どもの貧困

について「夢 SDGｓ助成」の調査助成を活用して調査を行い、３月の定期円卓会議で内容を公開した。また、子どもＳＵＮＳＵＮプロジェクトは那須塩原市にも波及し、夢ＳＤＧｓ助成により那須塩原子どもの貧困撃退♡円卓会議が立ち上がり調査を行っている。

・12 月のサンタｄｅクリーン＆ウォークでは高校生・大学生の若者チームが活躍した。寄付は 577 万円となった。また、年度末の２月から「こども食堂はみんなの居場所キャンペーン 2022」の準備をした。(実施は今期 4/10)

・・・

（2022 年）

① 総会、定期円卓会議、月例会

9 月 3 日に子ども SUNSUN プロジェクトの**総会**を開催した。テーマは「外国ルーツの家庭のこどもの未来のために」として「日本の制度問題点」として NPO 法人移住者と連帯する全国ネットワーク（移住連）大川昭博さんを招き基調講演を行った。対面とオンラインのハイブリッド方式で実施し約 50 人が参加した。

定期円卓会議は１回実施した。**②3 月 22 日**に**「外国ルーツの子どもの貧困調査報告会」**をおこなった。オンライン方式で実施し約 25 人が参加した。

月例会は５回（7、8、11、12、２月）実施した。毎月定例で実施することができず、結果的には隔月となった。しかしほかに複数回、総会や定期円卓会議、４/10 の「子供食堂応援イベント」のための打合せ会議があった。

このほかに 8 月～12 月にはサンタ de ランの会議が複数回行われ、11 月は助成金審査の打合せの会議があるなどで月例会を開く余裕がなかった。

② 「子ども食堂はみんなの居場所キャンペーン 2022」の実施

2022 年 1 月に「音楽イベントと子ども食堂のコラボ企画」が外部から寄せられた。月例会での検討後、4 月 10 日に「子供食堂はみんなの居場所キャンペーン 2022」を実施することになった。正味 2 か月の間に、３回の打合せ会議、パートごとに複数回の打合せ・調整を行った。参加約 200 人の盛況なイベントとなった。

「子ども食堂はみんなの居場所キャンペーン 2022」趣意書　（2022/4/10 実施）	
１、目的： ①地域の人が支え・集える「みんなの子ども食堂」であることを周知し、困窮家庭の子どもも普通の家庭の子ども皆が使える場としての子供食堂であることを広める。 ②子ども食堂の数を少なくとも各小学校区に１つ以上に増やしていく。また、ボランティアと寄付で運営されていることを伝え、人とお金の募集を行い「支える人」を増やして運営を安定させる。 **２、実施内容：** **①4/10 のオリオンスクエアを会場としたイベント** ●ステージ：七瀬みなのコンサート、OG サウンズの演奏　など ●フードドライブ（食品受贈）の受付、出張子ども食堂、寄付金の受付　●子ども食堂サミット **②4/10 までの活動：「子ども食堂はみんなの居場所キャンペーン」** …「宇都宮市内の全小・中学校区に１つの子供食堂を作る」を目的とすると 87 か所となり、推計で約 17 億 4000 万円が運営資金として必要となるが、宇都宮の人口（52 万人）で割ると一人 335 円となる。「1 人 335 円でこども食堂が 100 か所できる」等を合言葉に子ども食堂の理解と支援を求める。	〇方法１：1 人 400 円を寄付いただく。(封筒を配布。細かいお金だと両替経費がかかるので、大人は 2・5 人分 1000 円等) 〇方法２：子ども食堂への食品の寄贈を求める。しかし、子ども食堂は食品倉庫がないので、フードバンクと提携して貯蔵性のある食品予め指定して、持ってきてもらう。受付会場はオリオンスクエアだけでなく、各地の子ども食堂や、協力企業、事業所など（封筒寄付も受け付ける） 〇方法３：動画、チラシ等でのキャンペーン広報。学生・高校生チームによる動画コンテンツ制作と SNS による広報。「子ども食堂はみんなの居場所」についての内容であれば自由に制作してもらい、方法１、２についてチャレンジする内容がベスト。 **３、日時・場所**：4/10、11：00-14：00　宇都宮市オリオンスクエア **４、主催**：とちぎコミュニティ基金（子ども SUNSUN プロジェクト） **５、目標**：寄付 300 万円、ボランティア 100 人、食品受付件数 500 件 生活用品・学用品 100 件 **６、寄付金の使途**：①新規子ども食堂のオープンの助成金（公募での「子ども SUNSUN 助成金」）②既存の子ども食堂・フードバンク等の運営費補助（食材費など） **７、寄付金の振込先**　（省略） **８、　　問い合わせ**　（省略）

「サンタｄｅラン＆クリーン」の実施

７回目のサンタ deラン＆ウォークは「ラン」と「クリーン活動」を合体させた形で開催した。

ほかにも会場内で「サンタ deSDG s 自転車発電チャレンジ」も行った。多世代の人が楽しめるイベントとなった。当日は約 300 人が集まった。実行委員会は 4 月～1 月の 10 か月間、14 回実施した。また、今期も高校生や大学生など若者の動きが活発化した。

●大学生・とちぎ YMCA 高校生ボランティアチームつぼみ・日々輝学園の高校生らがサンタ de ラン PR 動画作成
●宇都宮ブリッツェン、日本競輪選手会栃木県支部の協力による自転車発電イベント

ボランティアに参加した高校生の中には「イベントをきっかけに子どもの貧困について考えるようになった」との言葉もあり、協力と感心の輪が広がった。イベント当日は、会場付近を通行する人や地元の人たちに向けても支援をよびかけ、大きなインパクトを与えるものとなった。

		2022		2021	
No	預かり寄付渡先	集めた金額	配分→支払額	集めた金額	配分→支払額
1	**とちぎVネット**	1,417,324	1,397,989	1,089,972	1,171,067
2	**子どものみらい応援隊**	229,807	226,672	240,000	257,856
3	**だいじょうぶ**	501,700	494,856	674,297	724,465
4	**とちぎYMCA**	217,987	215,013	356,745	383,287
5	**トチギ環境未来基地**	21,000	20,714	71,000	76,282
6	**うりずん**	626,505	617,958	335,926	360,919
7	**フードバンクうつのみや**	1,227,153	1,210,413	552,964	594,105
8	**青少年の自立を支える会**	15,526	15,314	20,000	21,488
9	**きょはら食堂キャラバン**	20,000	19,727	69,000	74,134
10	**ちゅんちゅんこども食堂**	200,000	197,272	220,000	236,368
11	**宮っこ元気食堂**	85,701	84,532	192,729	207,068
12	**たんぽぽの会**	110,410	108,904	102,220	109,825
13	**やぎハウス**	284,009	280,135	77,163	82,904
14	**自主夜間中学宇都宮校**	9,000	8,877	-	-
15	**そらいろコアラ**	43,487	42,894	-	-
16	**キーデザイン**	10,000	9,864	-	-
17	**蔵の街たんぽぽの会**	234,228	231,033	-	-
18	**チャイルドラインとちぎ**	105,000	103,568	-	-
19	**アップルバウム**	0	0	-	-
	計	5,358,837	5,285,734	4,028,338	4,328,049
	全体に寄付	1,688,808		1,742,394	-
	とちコミ経費		1,761,911	-	1,442,683
		7,047,645	7,047,645	5,770,732	5,770,732

①集めた金額⇒団体指定の寄付
②配分→支払額⇒75％分＋「全体に寄付」を按分した配分
①と②の総計は、按分の計算後、割り切れない数字があるので、ずれています。

■サンタ・事前イベント（11 回）
●街頭募金 5 回
11/26 実委企画「サンタ de 街頭募金」53,809 円
12/4 実委企画「サンタ de 街頭募金」57,149 円
12/5 実委企画「サンタ de 街頭募金」84,820 円
12/12 県北実委企画「サンタ de 街頭募金」35,522 円
12/25 県北 V ネット企画「サンタ de 街頭募金」●円
●サンタ de ラン PR
「子どもの貧困特別授業」Youtube 動画 35 本（再生回数 1374 回）

●シャケ募金、Bo 金魚（回遊型募金箱）約 20 個作成・寄付約 7 万円
●ポスター張り（3 回）11/9（14 人）、11/14（20 人）、11/19(11 人)
■当日ボランティア説明会（２回）12/4(15 人)、12/8(9 人)
■実行委員会（16 回）
3/25(14 人)、4/15(16 人)、5/14(23 人)、6/9(22 人)、6/25(15 人)、7/15(18 人)、8/4(12 人)、8/26(17 人)、9/16(16 人)、10/14(18 人)、10/27(12 人)、11/10(13 人)、11/25(13 人)、12/2(14 人)、12/16(19 人)、1/19(12 人)

③ 子どもＳＵＮＳＵＮプロジェクト助成金

2023 年度から使える子供食堂などの設立･運営支援のための助成プログラムを実施した。10 月に公募開始、1 月に審査会と配分を行った。10 **団体に総額 130 万円**を配分した。

	団体名	助成額
1	NPO）栃木県こども応援なないろ	100,000
2	NPO）雀宮まちづくりプロジェクト	100,000
3	駄菓子屋商店おっちゃん家	100,000
4	NPO）そらいろコアラ	200,000
5	NPO）Deram　Support	200,000
6	宮っこ支援センターSAKURA	200,000
7	NPO）みんなの学び場おやま	100,000
8	NPO）青少年の自立を支える会	100,000
9	NPO）国際アロマコラージュ療法協会	100,000
10	NPO）あかね会	100,000
	合計	**1,300,000**

（２）助成（ＮＰＯの活動資金の援助事業）

①「花王ハートポケット倶楽部・地域助成」

花王㈱の同助成金を活用しＮＰＯへ助成金を贈る地域助成を行なった。第16回目の助成金配分である。助成金額は20万円1団体、10万円3団体の50万円である。審査は12月13日の第1次審査で4団体を選考し、それらを、花王ハートポケット倶楽部の社員1700人の投票により1番票を集めた団体に20万円を助成することとした。応募は16団体だった。3月5日に贈呈式を実施し、前期（2021年）の助成団体の報告会も合わせて実施した。

2022 年度　花王・ハートポケット倶楽部地域助成（栃木地区）
―栃木県内のＮＰＯ・市民活動団体を応援―

花王㈱では社員有志による社会貢献寄付プログラム「ハートポケット倶楽部」を組織し、全国・地域の NPO を社員と企業で応援しています。今年は、栃木事業場のハートポケット倶楽部が、栃木県全域の全ての分野で活動するＮＰＯや市民活動団体から、「心温まる活動」「地域で必要とされる活動」を対象に助成します。

1、助成内容
助成内容
・助成総額：５０万円
・助成団体数：４団体
・助成金額　・助成：20 万円＝1 団体、10 万円＝３団体

2、選考までの流れ
◎応募受付開始：10 月 20 日　◎応募用紙提出締切：11 月 20 日必着
◎一次選考：12 月中旬。とちぎコミュニティ基金運営委員会により 4 団体を選出。
◎二次選考（投票選考）：１月中旬。 花王ハートポケット倶楽部に参加している社員に応募申請書を公開し、投票で採択団体を決定します。
◎贈呈式・レセプション：３月５日。１次審査通過団体においでいただき、贈呈式・レセプションを行います。
◎活動報告：助成金を使った様子を所定の書式で簡潔に報告ください。

3、応募団体の条件
①営利を目的とせず、公益的・社会的な活動をすでに 1 年以上継続的に行っている栃木県内の NPO・市民活動団体・ボランティア団体（法人格の有無は問わない）
②昨年度「メイン助成」を受けた団体でないこと（１年休み後の応募は可）。

4、応募・問い合わせ先
とちぎコミュニティ基金（認定 NPO 法人とちぎボランティアネットワーク内）
栃木県宇都宮市塙田 2-5-1
電話 028-622-0021　FAX028-623-6036　info@tochicomi.org

■選考結果
★20万円　NPO法人子どもの育ちを応援する会
★10万円　一般社団法人青空プロジェクトTHE　DAY
NPO法人ゆっくりサロン
NPO法人チャイルドラインとちぎ

■年間日程
9/29（木）助成金の説明会（まちぴあ・ぽぽら主催）
12/13(火)花王助成審査会
3/5(日)とちぎのミライをつくる大会（2021 年度花王助成報告会と、2022 年度助成贈呈式）

②「たかはら子ども未来基金」

2017 年から矢板市の篤志家からの寄付で「たかはら子ども未来基金」を創設し、学生インターン助成を実施した。「境遇や生育環境に関わらず、全ての子どもや若者が等しく人生を拓く機会を得られること」が目的である。子どもの貧困に関するボランティア・NPO の活動に対し、栃木県北地域を中心に助成を行った（2017 年から 2027 年までの 10 年間継続して寄付を受け、助成を行う予定）。

学生インターン部門には11団体の応募があり10団体に助成した。学生は20人の申込があり12人に助成した。なお、今年は特別助成枠で公益財団法人とちぎ YMCA が学生４人、NPO 法人青少年の自立を支える会が学生２人を受け入れた。なお、２人のインターン生は団体と相談したうえで活動を中断し、結果的には６団体に 10 人の学生が活動を終えた。

とちぎコミュニティ基金　［たかはら子ども未来基金］・学生インターン助成
（申込締切）団体：2022/6/4、学生：2022/6/30

1、たかはら子ども未来基金とは?
たかはら子ども未来基金とは、子どもや若者の未来を応援する目的で、2017 年に矢板市在住の夫妻が設立した基金です。現在、家庭の経済的困窮が要因となり、子どもや若者の「未来への可能性」を奪う様々な不利が生じています。 境遇や生育環境に関わらず、全ての子どもや若

者が等しく人生を拓く機会を得られるように「たかはら子ども未来基金」が創設されました。若者の中には、奨学金の事情やアルバイトのために、ボランティア活動ができない学生がおり、 そのような学生を応援する目的で学生 NPO インターン助成が設立されました。特に栃木県北地域の子どもや若者を支えていくことを目指します。

２． 2021 年度の助成事業（学生インターン助成）

学生 NPO インターン助成は、学生が一定期間、NPO や市民活動団体に就労体験すること（＝NPO インターンシップ）を応援します。若者と団体が共に成長できる仕組みを作ることを目的としています。企業のインターンシップは、業務の見習い的要素が強いですが、NPO インターンは、加えて、職員としてのボランタリーな自発性や創意工夫が求められます。日常業務のサポートだけでなく、インターン生とともに既存の事業の発展や新規の事業の立ち上げを行える団体に助成します。

３． 対象団体

① 子どもの食事と居場所を支える活動をする団体。例）こども食堂の運営支援、新規設立支援。② 子どもの学習を支える活動をする団体。例）無料学習支援、学びなおしの支援。学用品の物品支援など。③ 子どもの体験を支える活動をする団体。例）自然体験や文化体験などの子どもの心の成長を支える活動を支援。④若者の社会参加や就労、生活を支える活動をする団体 ⑤例）若者の居場所づくりや就労訓練プログラムを支える活動を支援。困窮学生支援。⑥その他、子どもや若者の未来をつくる活動を支える団体。例）環境分野の団体で、子どもへの自然体験活動を行っている団体、国際協力分野の団体だが、若者の国際交流活動を行っている団体など。

(1)助成する団体の条件

■営利を目的とせず、公益的・社会的な活動をすでに 1 年以上継続的に行う栃木県内の NPO・市民活動団体・ボランティア団体(法人格の有無は問わない) ■県南をのぞく、栃木県内全域を対象とし、特に県北の活動団体を優先して助成します。■対象市町：矢板、塩谷、高根沢、さくら、大田原、那須塩原、那須、那珂川、那須烏山 、宇都宮、上三川、壬生、日光、鹿沼、芳賀、市貝、益子、茂木、真岡。（事務所があるか、活動している団体）

(2)選考基準

前出の条件を満たす団体の中から、以下の選考基準で選考します。

１．子どもや若者の未来の可能性を本気で応援したい団体

２．地域で必要とされ一般の人に開かれて、参加できる活動

３．助成を受けることで、活動の基盤を強化できる団体

４．学生のインターンシップを受け入れる体制が整っている団体（学生が相談できる職員がおり、活動の計画、実施、振り返り、改善をともに行えること）

５．学生と一緒に、既存事業の発展や新規事業の立上げを行える団体

４．学生インターンの内容

・学生受入希望の団体と、NPO 活動に関心の高い学生をマッチング。

《助成額》８月～２月のうちの 12 日以上のインターンシップ活動に対し、学生 60,000 円、団体 40,000 円を助成します。

・助成総額：900,000 円(最大でインターン生 9 人分と団体 9 団体分)

＊１団体に２人以上の受入れてもらうこともあります。

①第一次審査（団体審査）：選考基準を満たしている団体には、最大 9 団体に、結果通知をお送りします。

②二次審査（学生審査）：選考基準を満たす学生はマッチングに進みます。

③マッチング手順

Ａ：1 人の学生が団体を希望。他に希望する学生がいない場合⇒成立。

Ｂ：１団体に複数の学生が希望している場合⇒団体と協議し決定。

Ｃ：希望の団体なかった場合⇒不成立。

④助成限度の９人のマッチング成立した場合、審査後、最終結果を通知します。

＊特別追加枠について…マッチングの時点で、団体への希望学生が多い場合には、団体が資金を用意すれば、学生にインターンシップに参加してもらえる「追加の枠組」です。オリエンテーションや振り返り会など、同じ枠組みで行います。（想定される例）→学生２人が団体 A にインターンを希望し、１人は助成金が通った場合、もう１人は特別追加枠として、参加。

５．新型コロナウイルスの対策についてのお願い

・新型コロナウイルスの感染防止のために、咳エチケット、消毒、換気、検温などの対策を行い、活動してください。

・インターン期間中に栃木県で緊急事態宣言が出た場合、インターンの実施について全部の団体ととちぎコミュニティ基金で打合せをし、実施の継続について決めることがあります。

・団体内でコロナウイルス感染者が出た場合、学生のインターンシップを一旦中止し、必ずとちぎコミュニティ基金に相談してください。

■選考結果	■年間日程
・伏本　遥さん（宇都宮大学）：とちぎ YMCA（宇都宮） ・森田　芳樹さん（宇都宮大学）：とちぎ YMCA（宇都宮） ・毛雨虹さん（宇都宮大学）：とちぎ YMCA（宇都宮） ・淵上　将貴さん（宇都宮大学）：とちぎ YMCA（宇都宮） ・新山　莉里加さん（宇都宮大学）：子どもの育ちを応援する会（那須塩原） ・牧野　友香さん（玉川大学）：そらいろコアラ（真岡） ・小林　紀晴さん（宇都宮大学）：サシバの里自然学校（市貝） ・工藤　想日亜さん（獨協医科大学）：青少年の自立を支える会（宇都宮） ・後藤　捺美さん（宇都宮大学）：青少年の自立を支える会（宇都宮） ・小林　歩夢さん（白鷗大学）：風車（矢板） ・阿部　百々子さん（獨協医科大学）：こども食堂ノエル（鹿沼）＊活動中断 ・小嶋　華さん（宇都宮大学）：ポン・テ（さくら）＊活動中断	5/1-6/4　団体の応募期間 5/1-6/30　学生の応募期間 6/17　団体審査 6/30　団体へマッチング通知発送 7/31　最終結果通知発送 8/6　贈呈式・オリエンテーション ☆8/7～2/28　インターンシップ期間 9/6, 10/5, 11/4, 12/8, 1/17, 2/17 学生交流会（全６回） 9/1, 11/25　団体交流会（全２回） 12/20　学生交流会③（NPO インターンシップラボ合同） 3/1　『県境を超えよう！NPO インターン生交流会』（NPO インターンシップラボ企画） 3/11　活動報告会@ぽぽら

④ 「とちぎゆめ基金助成」「ゆめＳＤＧｓ助成」

調査助成の応募はなく新規の審査は行わなかった。３団体が３年間の継続助成の２年目となり、継続助成は１団体となり審査を行い２年目の助成を行った。

2020とちぎゆめ基金　「持続可能な地域づくり・ＳＤＧｓ助成」締切	
１、主旨 この助成は、持続可能な地域社会を作るために、複数の主体が参加して協働する地域課題解決の調査や実施に対して助成を行います。(1年目は調査助成のみ) 国連が決めた「持続可能な社会づくりのための17のゴール（ＳＤＧｓ）」達成は、2030年。複数の目標を地域のみんなで取り組む協働事業の設計(調査)と実施(継続するための仕掛けづくり)のスタートを支援します。みんなで10年取り組めば、地域の課題が解決していく。みなさんの取り組みが他地域へ波及し、持続可能な社会へ変わるきっかけとなることを期待しています。	
２、対象となる事業・条件 ・３～５団体以上の協働での応募であること。 ・持続可能な地域社会づくりの企てで、調査、人材育成、「継続する仕組み作り」に取組む内容であること。 **３、伴走支援：**必要に応じてとちぎコミュニティ基金が伴走支援をします。 **４、助成期間：2020年4月1日～2021年3月31日** **５、助成金額・件数：**総額50万円 (1)調査助成：１事業10～15万円×３団体程度 (2)継続するための仕掛けづくり助成(２年目以降)：10～20万円×２団体程度 ※今年度は(1)調査助成のみ募集 **６、報告書・成果物** 調査助成の場合には、報告書等の成果物、イベント等の開催実績報告書が必要です。	**７、応募について** (1)応募資格：栃木県内で対象事業を行うボランティアグループ、NPO、社会福祉施設、学校、住民組織等（※営利/非営利、法人格不問） (2)応募方法:①応募申請書(所定の様式)に必要事項を記入の上、郵送かメーで。②応募要項・応募申請書はホームページからダウンロード (3)締切：2019年12月25日（水） (4)選考方法と選考基準 ①とちぎゆめ基金・運営委員等からなる選考委員会で決定します。 ②複数団体による応募を優先します ③地域・地方の複数の課題について、多様な主体が協働して課題解決するとともに、地域社会(全体)の持続可能性（SDGｓ）への促しを進めるもの。 ④広義の福祉を中心とした応募を優先します。 ⑤波及効果があるもの、他地域、後続団体が真似していけるもの。 ⑤　選考結果の発表：2020年1月末、文書で連絡。

④ウクライナ難民支援募金

ロシアのウクライナ侵攻で発生した難民救援の募金活動を、前期2月から今期12月まで実施した。**約193万円**の寄付が集まった。寄付金は**日本ＹＭＣＡ同盟**を通じてヨーロッパのＹＭＣＡ同盟経由で各国のＹＭＣＡの救援活動に使われる。

⑤トルコ・シリア難民支援募金

2月6日にトルコ・シリアで発災した大地震に対し募金活動を開始した。現在**635,093円（4/8現在）**もの寄付が集まっている。トルコ南部で災害救援活動を行う**ＣＯＤＥ海外災害援助市民センター**に助成する予定である。遠隔地であり直接の救援活動ができないので寄付を贈ることにした。

⑥「がんばろう栃木！コロナ支え合い募金」一般助成

コロナ禍が長期化していることから「コロナ支え合い基金」を継続している。現在 **263,300 円（4/8 現在）**の寄付が集まっている。一定の金額が集まった時点で公募助成する予定である。この助成により、コロナ禍による様々な影響で大変な状況になっている子ども・家庭を応援するとともに、地域に根差した活動をしている NPO 等を応援したい。

（３）合同ファンドレイジング（ＮＰＯの活動資金の援助事業）

①サンタdeラン＆クリーン

子どもＳＵＮＳＵＮプロジェクトの一貫として合同ファンドレイジングを実施した。(P18)

②チャリティウォーク県北20、チャリティウォーク宇都宮22

県内のＦＢ団体の合同ファンドレイジングとして今期からとちコミの主宰イベントとして実施した。昨年同様の１日イベントを県北（10/1西那須野)、県央（10/8宇都宮）の２か所で実施した。**寄付総額2,809,812円、寄付者293人（件）**で、**参加者は県北・宇都宮合計で2066人、ボランティア196人となった。**

運営のために７月から実行委員会を組織し**実行委員会･ボランティア説明会を５回**実施した。

	団体名	寄付配分額
1	ＦＢ県北	1,251,410 円
2	ＦＢうつのみや	547,457 円
3	ＦＢ日光	127,963 円
4	ＦＢもおか	137,044 円
5	ＦＢしもつけ	25,091 円
6	ＦＢさくら	40,145
	経費 25%	679,999 円
	合計	2,809,109 円

第 10 回チャリティウォーク　[県北 20][宇都宮 22]
10/1 県北、10/8 宇都宮

１、目的・趣旨

県内で活動するフードバンクへの資金造成（寄付）とフードバンク活動の理解促進のためのチャリティイベントをとちぎコミュニティ基金の主催で実施する。

食品ロスの軽減だけでなく。窮した状況にある人たちの現状や制度の限界を伝えることでフードバンク活動の意義や効果をより広く世間に広報する。そして、それらを支えるのは地域住民、企業の意識であり、寄付であることを訴え、「私たち自身がセーフティーネットを作っていく」必要性と、こうした仕組みの存在があることで「やりなおしがきく社会」をつくる希望となることを強く発信する。

○県北と県央の 2 会場とし、日付をずらして実施する。

２、日時・場所

①県北）2022 年 10 月 1 日(土)9 時～16 時頃（雨天実施）
・大田原市役所　⇒　烏ヶ森公園　⇒　大田原市役所
②宇都宮）10 月 8 日(土)9 時～16 時頃（雨天実施）
・宇都宮市中心部　⇒　大谷（往復）

３、参加資格等

●チャリティ・ウォーク県北 21　●チャリティ・ウォーク宇都宮 22
・参加できる人（個人）：食品 1 kg以上の寄贈、と寄付 3,000 円か 5,000 円か 1 万円以上を寄付した人
（団体）：1 チーム 3～5 人。食品 10 kg以上を寄贈し、3 万円以上を寄付したグループ　　※小学生以下は引率者同伴での参加に限る
･寄付先の指定:今回参加している県内の FB のどこにでも寄付できます。□に?してください。
寄付先団体　①フードバンク県北 ②フードバンクうつのみや､フードバンク日光、④フードバンクもおか　⑤フードバンクさくら　⑥フードバンクしもつけ
・両方参加：5000 円か、8000 円か 16000 円以上の寄付（2 割引きの寄付額）
※食品はできれば多くの人から集める。(缶詰、レトルト、麺類)
※寄付は自分で寄付するだけでなく､声をかけて身近な人からも集める。

４、広報

WEB サイトによる広報。①　フードバンクの周辺にいる困窮者の実情を記事で紹介する（毎週１~2 回更新）
チラシの配布による営業活動　①各市町　②企業　③学校

５、募集

①県北/・参加者 150 人（団体 10 チーム、個人 100 人）
・ボランティア：50 人　・協賛企業（施設）…10 社：寄付および参加者への支援飲料、食品など
②宇都宮/・参加者 200 人（団体 15 チーム、個人 130 人）
・ボランティア：60 人　・協賛企業（施設）…15 社：寄付および参加者への支援飲料、食品など
・企業にボランティアを募る。休憩所の運営など

６、目標金額：350 万円

・県北コース：175 万円、(団体 30 万円、個人 50 万円、協賛 40 万円、寄付のみ 55 万円)
FB 県北 120 万円　　FB さくら
・宇都宮コース：175 万円（団体 45 万円、個人 60 万円、協賛 20 万円、寄付のみ 50 万円）
FB うつのみや　90 万円、FB 日光　20 万円、FB もおか 10 万円

７、開催までの日程

※実行委員会（第 2・第 4 土曜 15：00～）
6/25（15:00～）募集要項決定、協力者の募集（個人・企業・団体等)、参加者募集。
7/9：宇都宮コース決め、集合場所等予約　チラシ・ラフ
7/17：宇都宮コース下見（コース確認、休憩ポイント確認等）
7/24：パンフレット完成。協賛企業募集開始
8/1：参加チーム等によるファンドレイジング開始　中旬までにボラ数、ふるまい、備品確認
8/31：第 1 次締切
9/24：ボランティア説明会
9/25：第 2 次締切
・10/1：県北 21　実施　　・10/8：宇都宮 22　実施

(４)休眠預金活用事業「新型コロナウイルス緊急支援　ひとりにしない、させない助成」(NPO の活動資金の援助事業)

一般財団法人日本民間公益活動連携機構より、当会が資金分配団体として選定され、本県のコロナ対応活動の助成が可能となった。コロナによる「孤立」と「分断」に起因する様々な困難な状況下にいる方の支援を取り組む 8 団体(総額 19,854,644 円)の助成を行った。また助成採択団体へは、月 1 回の活動を振り返るフィードバックミーティング、マネジメント力強化のための研修(全 5 回)、全体の連携促進(中間発表、成果発表)などを実施

し、資金提供だけでなく、助成による活動実績から自ら寄付や会費などの自主財源を集めることができる組織的成長支援を実施した。

「休眠預金活用　新型コロナウイルス対応緊急支援助成」　（2022・3 月～2023 年 3 月）

●休眠預金活用　新型コロナウイルス対応緊急支援助成募集要項

1、目的・趣旨

新型コロナウイルス感染拡大によって、困難を抱えた人たちの暮らしはその度合いを増していることを背景に、休眠預金の活用により、様々な困難を抱える人たちの支援や、より誰もが住みやすいまちを作る栃木県内の活動を助成金の提供と伴走支援により応援する。あらゆる人が、「孤独ではない」と感じられる社会を創るために。

2. 助成額・助成期間・対象地域

本助成による実行団体への助成総額は、総額 3,500 万円。また、１実行団体あたりの助成額は、200 万円～1000 万円。

3. 助成期間（実行団体の事業実施期間）：資金提供契約日～2023 年 2 月 28 日の間の活動を助成。

4. 支援活動範囲：栃木県内での活動に対して。

5. 選定基準

資金分配団体は、以下の選定基準に基づき選定を行います。

(ア)ガバナンス・コンプライアンス:包括的支援プログラムに示す事業を適確かつ公正に実施できるガバナンス・コンプライアンス体制等を備えているか

(イ)事業の妥当性:事業対象となる社会課題について、問題構造の把握が十分に行われており、事業対象グループ、事業設計、事業計画（課題の設定、目的、事業内容）が解決したい課題に対して妥当であるか。

(ウ)実行可能性:業務実施体制や計画、予算が適切か

(エ)継続性:助成終了後の計画（支援期間、出口戦略や工程等）が具体的かつ現実的か

(オ)先駆性（革新性）:社会の新しい価値の創造、仕組みづくりに寄与するか

(カ)波及効果:事業から得られた学びが組織や地域、分野を超えて社会課題の解決につながることが期待できるか

(キ)連携と対話:多様な関係者との協働、事業の準備段階から終了後までの体系的な対話が想定されているか

■助成総額　　9 団体　総額 34,461,070　円	N)そらいろコアラ 4,760,000 円	N）キーデザイン 3,997,570 円
N)子どもの居場所 OZ 3,500,000 円	一社）えんがお 4,852,000 円	N）那須高原自然学校(コンソーシアム)4,951,500 円
一社)子ども食堂ノエル　5,000,000 円	N）風車　2,400,000 円	N）子どもの育ちを応援する会　3,000,000 円
		N）とちぎ公公立夜間中学校　2,000,000 円

F．【とちぎ県北ボランティアネットワーク】

（概況）2022 年度は日本財団「子ども第三の居場所運営事業」の助成金により、フードバンク活動と共に、週 3 日（火水金）の子ども食堂と、毎月2回の子ども体験活動を実施した。

職員 1 人、非常勤職員 2 人とボランティア 50 人とともに事業を実施した。現在は3年後の助成終了後に、会費寄付などの自己財源で運営ができるように組織体制の強化をしている。

前年度のボランティア中心の運営から、職員とボランティアの協働による運営に切り替わったことで、意思疎通が上手くいった。一方で**フードバンク県北**は利用が 1.2 倍に増加したが、受贈食品が減少し、食品不足の傾向がある。また、毎月、**食品定期配布会**を行った。来所の困窮者にアセスメントをおこなった。

寄付イベントとして**チャリティウォーク県北**や、サンタ de ランの事後イベントとして**第 2 回「クリスマスウォーク」**を開催した。参加者に好評で 60 万円の寄付を集めた。

この他に「**米パンつくりワークショップ**」や、**「竹藪から竹林にプロジェクト」**などボランティアによる自発的な活動が盛んに行われた。

（１）生活困窮者支援（生活困窮者の支援）

①フードバンク県北

フードバンク県北では、2022 年度は **8.0 トンを受贈**、うち **8.1 トン（637 件）を生活困窮者に寄贈**した。昨年よりも件数が増加した。コロナ禍で立ち直りができない人が多く長期の困窮状態が続いて

フードバンク県北：月別入出庫

2021年度　（ｋｇ）

	受入			出庫		
月	件数	個数	重量	件数	個数	重量
4月	43	928	522.1	74	943	496.3
5月	25	758	419.1	50	743	391.8
6月	28	1323	309.0	47	809	353.7
7月	29	436	452.1	61	915	553.8
8月	42	1127	316.9	42	715	390.5
9月	57	837	1403.0	50	929	745.5
10月	88	1121	1625.7	39	771	644.2
11月	55	601	636.1	50	1442	679.3
12月	35	688	538.7	44	934	653.8
1月	31	497	512.7	49	784	396.0
2月	20	839	819.2	43	887	847.3
3月	24	674	377.6	46	934	511.5
合計	477	9829	7,932.2	595	10806	6,663.7
月平均	39.8	819.1	661.0	49.6	900.5	555.3
前年度比	126%	111%	101%	104%	141%	123%

フードバンク県北：月別入出庫

2023/4/1

2022年度　（ｋｇ）

	受入			出庫		
月	件数	個数	重量	件数	個数	重量
4月	19	467	240.3	50	1135	492.7
5月	20	362	233.9	57	880	520.4
6月	25	330	454.1	51	759	637.2
7月	40	508	277.5	40	662	465.5
8月	30	419	383.4	55	855	562.2
9月	39	1877	1038.1	61	957	524.4
10月	88	2011	1920.1	76	1716	1834.2
11月	28	1107	531.8	64	1120	611.4
12月	40	861	812.1	49	926	663.4
1月	34	606	347.9	40	942	577.0
2月	29	429	795.9	49	848	841.8
3月	21	806	1046.3	45	886	437.8
合計	413	9783	8,081.4	637	11686	8,168.0
月平均	34.4	815.3	673.5	53.1	973.8	680.7
前年度比	87%	100%	102%	107%	108%	123%

いる。

食品配布会は毎月第２土曜日に実施し、徐々に困窮世帯との関係性ができ、支援のきっかけを探れるようになった。また９月には**米の配布会**を県北の各社協と連携し実施した。

10 月には**「チャリティウォーク県北 21**」を主宰し、参加 100 人寄付 120 万円を集めた。フードバンク県北の知名度が向上した。フードバンク代表を實から安井に代替わりしたため、前代表は、負担が軽減して情報共有とスムーズな支援ができるようになった。宇都宮事務所との連絡も交流・定着が進んでいる。

（２）子ども第三の居場所 子どもの居場所スマイルハウス （生活困窮者の支援）

①「子ども食堂」の運営…「子どもの居場所」、「学習支援」、「食事支援」

子ども食堂は毎週３日（火・水・金）に実施した。水曜日は（7 月～）スタートする。子どもたちの生き抜く力を育むことを中心に、子どもたちが安心・安全に過ごせる居場所として、また食事は栄養バランスを考慮した食事を無料で提供して食の大切さ、みんなで食事をする楽しさを伝えていきました。また学習習慣が定着するようにスタッフによる宿題支援を行いました。

⑧「子ども体験活動」の実施

毎月２回 第 1、3 土曜日に体験活動を実施した。子どもたちには野外活動、農業体験、料理、自然とふれあうことなどの経験を積ませ、チャレンジ精神、自己肯定感、主体性、対人コミュニケーションなどの「非認知能力」を育ませた。スマイルハウスの子どもだけではなく、他の子どもや大人と関わりを学びながら社会性も身につけている。

⑨ ヤスイの食卓（若者支援）、子どもも大人も誰でも来れる食堂

毎月 2 回 第 1、3 土曜日に実施した。参加費 200 円の中で食材を購入し工夫しながら料理を作り、生活習慣の向上をはかった。12 月から毎月第 3 土曜日は、親の子育て負担の軽減支援と若者の自活能力の向上を掲げて、**子どもも大人も誰でも来れる食堂**をオープンした。おとな 500 円、子ども 300 円と低料金でまかなう。

３．財政・組織運営

（１）会員

会員数は**513人（団体24、支持184、賛助305）**、会費は**179万円**になった。会員数は若干減少気味である。会費収入は昨年より-29万円である。

通常の会員拡大の方策は、①団体会員などの新規会員の拡大、②現会員の継続の２つである。会費の振り込み手続きが面倒であることも予想され、**「ついつい未納」**になることが多い。**クレジットカード**での振り込み（ホームページから手続き）、会員総会、Ｖネットの集い等で**現金で納入**できることも周知している。更に会員更新のお知らせやお礼状を郵送で送ったことも未納者や退会者を最小限に抑えている。

会員拡大は事務局の職員が中心に行うことが多く、声をかける人が限定されているのも会員増加につながっていない、会員になる目的をもっと打ち出せるようにしなければならない。

対応策として従来の人を集める手法に代わる活動を打ち出し、ネット環境を使い多くの人と接点を増やす。また、とちコミの事業やフードバンクなど**ボランティアやファンドレイジングと連動した活動**にするように事業を変えている。

（２）寄付

年間寄付額は 2,729 万円になった（前期 1,903 万円）。

とちコミの助成**「たかはら子ども未来基金」に継続的に拠出する寄付（毎年 100 万円）**があった。

また、ＮＰＯ法人会計基準によるボランティアの活動時間を「ボランティアによる役務の提供の評価額」とし、最低賃金で換算して寄付として充当した。今期は**ボランティア活動評価益は 302 万円**となり前期より 7 万円増加した。

現在の寄付金の項目は以下の通り。

<table>
<tr><td>① 一般寄付</td><td>通常の寄付（災害救援ベンダーの寄付も含む）</td><td rowspan="6">銀行引落し
年 1 回とマンスリーサポーター（毎月引落）の方法が選べる。</td><td rowspan="6">オンライン寄付
ホームページからクレジット決済ができる。マンスリーサポーターになれる</td></tr>
<tr><td>② 年末年始募金</td><td>年末年始のキャンペーン時の寄付。12 月 1 日～1 月末まで</td></tr>
<tr><td>③ 災害救援ボランティア基金</td><td>災害救援目的の寄付</td></tr>
<tr><td>④ コロナ支えあい基金</td><td>コロナ禍に取り組む団体への寄付</td></tr>
<tr><td>⑤ サンクスＶクラブ</td><td>Ｖネット“後援会”寄付金(後述)</td></tr>
<tr><td>⑥ フードバンク寄付</td><td>フードバンク事業に対する寄付</td></tr>
<tr><td>⑦ プレミアム寄付コース</td><td colspan="3">Ａ：SOS を出している人の人生寄り添いコース：50,000 円　Ｂ：創意工夫のある郷土づくりコース：100,000 円</td></tr>
<tr><td>⑧ とちぎコミュニティ基金</td><td>「とちコミ」のメイン寄付。認定ＮＰＯ法人の利点を活かして、本会特別会計で預かっている
①　とちコミ寄付　②SUNSUN プロジェクト寄付</td><td colspan="2">オンライン寄付
ホームページからクレジット決済ができる。マンスリーサポーターになれる</td></tr>
</table>

（３）事業収入

受託事業収入は490万円と昨年より40万円減少**。**また**助成金は4,977万円と昨年より1,540**増えた。

バランスのとれた財源構成が重要だが、安定した委託事業等はない。本会の存在意義を発揮し、本来事業を伸ばすことが必要である。寄付をのばすなどの努力が必要である。

（４）組織

①会員総会

支持会員・団体会員による会員総会は 5 月 21 日に実施した。

定期会員総会は 124 人出席（うち委任状 118 人）があり会員総会が成立した。議案のすべてが原案どおり可決成立した。また本会員総会に先立って、5 月 19 日に監事による業務監査・会計監査が実施され、会員総会で「適切に事業運営、適正に会計処理」されている旨の監査報告がなされた。

② 中期計画会議

今年度は2019年に作成した中期計画会議の最終年にあたるので、2023年から2025年にかけての中期計画会議を開き中期計画を作成した。

本会ははどのような組織であるべきなのかを参加者に認識を促してから具体的な計画の作成を行った。

月日	会議名
10/11　第1回	ＳＷＯＴ分析　8名
11/19　第2回	追加SWOT　各部門事業計画・発表　12名
1/14　第3回	各部門発表　　15名
2/11　県北1回	県北中期計画会議　17名

③来年どうするか会議（創出会議）

本会職員とボランティアスタッフを集め来年度の事業を考える**来年どうするか会議**をグループワーク方式で開催した。部門を超えて人が交わることで新たなアイデアを生み出すきっかけになった。

月日	会議名/出席人数
11/23	来年なにするか会議　/　18人　（進行：小澤

④理事会

理事会を4回開催した。

月日	議題/出席者
5/19　監査	菅又、菊池
5/17　第１回理事会	①　2021 年度事業報告・決算について ②　矢野、廣瀬、徳山、柴田、柴田、荻津、山本、
6/8　第２回理事会	①　理事長の選任について ②　矢野、荻津、山本、柴田、佐藤
12/15　第３回理事会	③　上半期の事業報告について　/矢野、荻津、大金、柴田、山本、飯島、荻津
3/25　第４回理事会	①　2023 事業計画・予算について　/矢野、廣瀬、中野、柴田、塚本、藤田、高久、飯島、鈴木

④ 職員会議・ケース検討会

第２・４水曜10時から、**職員会議**を毎月２回開催した。うち１回は運営委員会とした。総合相談支援センター運営の情報共有と事業執行についての会議をおこなった。**ケース検討会**は第１・第３水曜に総合相談支援センターのケースの情報共有を行った。対面とオンライン(zoom)でも参加できるようにした。

●運営委員会・職員会議　4/13、4/27、5/11、5/25、6/8、6/22、7/13、7/27、8/10、8/24、9/14、9/28、10/12、10/26、11/9、11/30、12/14、12/21、1/11、1/25、2/8、2/22、3/8、3/22	
●ケース検討会：4/6、4/20、5/18、6/1、6/15、７/6、7/20、8/3、8/17、9/7、9/21,10/5、10/19、11/2、11/16、12/7、12/21、1/18、2/1、2/15、3/1、3/15	

(５)チームの会議・活動日

①新聞切り抜き隊＋しみん情報玉手箱

毎週水曜日１３時半から活動を行う。各自新聞の切り抜きを持ち寄り、ファイリング、要約、パソコンへ入力を行う。情報の収集・提供のためのボランティアチーム現在 3～4 人。

② フードバンク会議

毎週木曜15:00から会議を行った。（詳細は、ＦＢで報告）

③サンクスＶクラブ(後援会)

サンクスＶクラブは**年間２万円以上の寄付**をいただいた人が来られる寄付感謝会である。メンバー制をとっているが、クラブ員の高齢化のため、参加が少ない。年２回の定例会(親睦会)を行う「ゆるやかな」つながりが持てる会であるが、参加方法、内容などの見直しが必要である。今期はコロナ禍ということで開催を見送った。

サンクス"V"クラブ　会則　2005年７月30日 （第１条）本会はサンクス"V"クラブと称する。 （第２条）本会の事務局を宇都宮市塙田２丁目５番１号とちぎボランティアネットワーク内に置く。 （第３条）本会はとちぎボランティアネットワークの応援をすることを目的とする。 （第４条）本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。	1. 寄付に関すること 2. クラブ員の親睦に関すること 3. その他、目的達成に関すること。 （第５条）本会は栃木県内のボランティア、NPO、企業及び本会の目的に賛同するものを会員とする。 （第６条）本会に次の役員を置く。 〔1〕代表　1名 〔2〕副代表1名以上	〔3〕会計　１名 （第７条）本会の経費は寄付金、その他の収入をもってこれに当てる。 （第８条）本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。 **役員名簿** 代表:高橋昭彦さん　副代表:高木敏江さん　会計＆事務局：菊池順子

監査報告

2022年度の業務および、一般会計決算書、特別会計決算書は監査の結果、適正に処理されていることを報告します。

2023年　　月　　日　　監事＿＿＿＿＿＿＿＿

監事＿＿＿＿＿＿＿＿